

UFOと宇宙哲学の研究誌

GAPニューズレター

No. 69

特集・1979年度日本GAP総会



〈巻頭言〉 常識とマナー…1

1979年総会、大盛況！…2

〈講演〉 アダムスキー問題と宇宙開発

キース・フリットクロフト…3

〈講演〉 ヨーロッパのUFO事情、ベルギー
GAPの活動とアダムスキーの思い出

メイ・フリットクロフト…12

総会を終えて 久保田八郎…22

〈対談〉 オーラと過去世の透視…27

質疑応答(2) スティーブ・ホワイティング…31

読者の声…34

各地行事報告と予告…36

「アメリカ南米宇宙考古学の旅」参加申込者中間発表…38

日本GAP全国月例研究会案内…40



GAPとは

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について「知る」機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて「コスミック・パワー」の子であり、そのパワーの諸法則や宇宙に遍満している真実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた「生命の科学」の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群から偉大な発展をとげた人々が地球を訪問しつつある。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の起源と未来の運命の真実を知るのに有益である。

本誌は政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。

■表紙写真は、1979年11月23日、日本GAP総会において講演中のキース・フリットクロフト氏。 撮影 安藤澄雄

多年、巷間に氾濫する求道書や哲学関係書に眼を通し、多くの求道者に接してきた結果、痛感するのは、高度な話をしてたり難解な文章を書いたりする人に会うと、意外と常識やマナーに欠ける例が多いという事実である。畏友・十菱麟氏がむかし学生時代に鎌倉に住むある有名な禅の学者を訪ねたところ、紹介状を持たぬ者に会うわけにはゆかないと冷たく追い返された体験を回想し、有名人の書く文章と品性と別ものだと述懐しておられたことがある。

我々は言行不一致に墮すことなく、宇宙哲学の研究実践者にふさわしい土台として、豊かな常識と洗練されたマナーを身につけることが肝要である。粗野な態度を示しながら宇宙の法則や愛の精神を説いてもナンセンスであり、うとましいのである。

抽象論に終始しても無意味なので具体的に述べる時、まず食事の作法に留意すべきであろう。

◆食物をかむときは絶対に口の音を立てぬようにしよう。「食事中にベチャベチャとイヤらしい音を立てるのは日本人とブタだけだ」と西欧の白人社会から軽蔑の的になっている事実を一億の日本人の殆どが知らないのはUFO以上に不思議な現象である。

◆テーブルの縁に肘をついて食器を持つたりするのも日本人特有の不作法な態度である。高名な写真家の三木淳氏はゼミの学生と会食する際に常にこの事をやかましく言われるという。海外生活の長かつた氏から見れば、一部の若い人達の不

作法さは眼にあまるのだろう。

むかしGAPのある会食で、一青年が畳の上に片膝を立てて、ひどく口の音を立てながら食事していたが、これは最高の入学難で有名な大学の学生だった。学歴や学閥ほどいい加減なものはない。人間の品性を高めるマナー教育を大学で絶対にやらないからだ。

「イギリスの如何なる婦人といえども彼女らがただ一人で食事している光景をひそかにのぞくと、マナーの立派なのに讃嘆のほかない」とは新渡戸稲造の言葉だったと思う。ただしこれは昔の話で現代はどうか知らぬ。だが今もイギリスやド

<巻頭言>

と一 常識 マナー



イツあたりは学校でも家庭でも躾教育がきびしいと聞く。日本は野放し天国だ。我々は自身の力で視野を拡大するより他に方法はない。

◆挨拶をしよう。年齢の如何にかかわらず必要な場合に礼儀正しい挨拶のできる人はオトナであり、できぬ人はコドモである。戦前は武士道教育や軍国主義の影響があったとはいえ、十歳代の少年でも立派に挨拶ができたが、戦後の青少年は骨抜きにされ赤ん坊になってしまった。恐るべきエセ自由主義教育の結果である。というよりもマナー教育不在なのだ。我々は堂々と挨拶をしてオトナにな

ろ。その上での宇宙哲学である。

◆言葉使いに気をつけよう。他人との対談中、相手を傷つけるような擲論(からかい)、皮肉、嫌味を一切口に出さぬようにしよう。むしろ集いの場では心温まるような雰囲気を感じ出すように細心の注意を払い、相手の身になって考えよう。対談中、偶然に両者の発言が合っただけの場合、「どうぞ」と言って相手に発言を譲ろう。相手を無視して強引にしゃべり続ける者は幼児である。この幼児が多いのだ。

◆常に微笑を浮かべて他人に接しよう。微笑は創造主が人間だけに与えた素晴らしい表現法であり、他人の心を和ませる最高の道具である。しかもこの道具の使用料はタダなのだ。これを用いぬという手はない。

◆信義を重んじよう。「これは内緒だから他言しないでくれ」と頼まれたら、口が裂けてもしやべらぬことにしよう。安易に洩らす人間は信用されないし、だいたい、「洩らせば、いつか必ず知れる」という法則に気づかぬ鈍感な人間だとみなされるのである。人間の心は弱いのでも洩らしたいという誘惑に駆られるけれども、それを抑制するのが宇宙哲学の実践家である。

アダムスキー問題は、いわゆる常識を超越しているが、これは二十一世紀の科学を先取りしているからであって、我々研究者を非常識者と化さしめるような内容ではない。それどころかGAP会員の集うところ、きわめて上品かつ優雅な紳士淑女の集団だと絶讃の的になるのが普

通である。それは宇宙哲学(アダムスキー哲学)自体が人間の精神を精緻にさせる要素を含んでいるからであり、これこそ人間成長の指針として本物なのである。したがって、宇宙哲学の研鑽を呼びかける一方、非常識な言動により他人を困惑させる者は所詮ニセ者にすぎない。

我々はニセ者になつてはならぬ。その土台として日常の言動に極力注意する必要があるけれども、最重要なのは自己の想念内容やフィードバックの自己観察である。これをやらぬから常識外れにおちいりがちになるのだ。してみると宇宙哲学の実行は人間を真に常識豊かな宇宙的感受の溢れた状態に昇華させる一大目標だということになる。つまりこの哲学を実践すればするほど我々は自己の内面の観察力が鋭くなり、自然に愚鈍な非常識状態から脱却する方向へ進むことになるはずであるが、そうならないのは宇宙哲学を全く理解していないか、または実践していないからだだろう。

「人間で完全な者は存在しないから、他人のマナーや態度をとやかく言うな」とは自己の欠点の暴露を恐れる者の言い草である。ここで提唱するのは、他人の作法を批判しようというのではなく常識とマナーにすぐれた人間となって自ら言動で範を示そうではないか、ということなのだ。

アダムスキーは高度なマナーを身につけた立派な人であったといわれ、アメリカGAP本部の人達も素晴らしいマナーを發揮する優秀な指導者である。我々はこれを卒直に見習うことにしよう。

★1979年度日本GAP総会大盛況!

★ベルギーGAP主宰，ヨーロッパきっての名高いUFO研究者



フリットクロフト 夫妻の大講演!

★宇宙開発とアダムスキーの宇宙問題の重要性を力説!

●1979年11月23日，恒例の日本GAP総会が皇居北の丸公園内の科学技術館で開催された。出席者は約250名。10時より久保田主宰者の挨拶に続いて志田真人氏の司会により，まずキース・フリットクロフト氏の講演が始まった。通訳は田中正氏である。内容はきわめて高次な科学的なもので，一般人には理解しがたいだろうがGAP会員にはまたとない貴重な資料となるものであった。途中，氏は貧血のために壇上で倒れるというハプニングがあったけれども，10分間の退場休憩の後，再度壇上に現れて講演を続行した勇氣に万雷の拍手を浴びた。

●午後はメイ・フリットクロフト夫人によるアダムスキーの思い出を中心としたUFO問題の秘話がフランス語で行われ，藤田佳子さんの通訳により満場を魅了し，最後に昨夏実施された日本GAP企画第1回「アメリカ中米宇宙考古学の旅」の素晴らしいスライドが映写されて，大成功裡に終了したのは5時であった。参加者各位及び役員の方々に深甚の謝意を表する次第である。なおフリットクロフト氏の講演原稿は長すぎたために壇上では一部分を省略したが，本誌には全部を公開した。





△講演完訳▽

アダム スキー 問題と宇宙開発

キース・フリットクロフト

皆さん、こんにちは。

ここで皆さん方にお話しできることは私にとって特権でもあり喜びでもありません。私たち夫婦はビスタのアリス・ウェルズ夫人、ステックリング夫妻、ハワイティンダ氏からの挨拶をお伝えします。この方々は意識において私たちと一体であります。

こんにち重要なのは科学技術でありませんが、特に宇宙開発技術に重点がおかれています。わがアポロ宇宙船は月の周囲の軌道を回るあいだに、数百メートルの深さまで月の岩石や土を自動的に分析することができず。人工衛星は非常に正確に写真を撮影することができずので駐車場のスペースを区分するペンキのマジさえも容易に識別できるのであります。私たちはかなりの短期間にはほとんどいかなる科学的な目標をも達成し得る大研究所を持っています。

こんにち私たちは洗練された感覚でもって、初期の努力を振り返って見えています。しかし現実を見ますと、未来には多くの障害や危険が横たわっています。私たちが歩む道は必ずしも容易ではありません。私たちが歩む道は世界の進歩について知的に参加するために現代の出来事を理解しようとするれば、私たち人間が、どのようにして現在の状態に到達したかを知ること

が必要であります。こうした知識を持つならば、私たちは未来への挑戦に、より良く直面できることとなります。

地球の周期は変わった

私たちの活動の創始者であるアダムスキー氏が一九三九年に語ったところによりますと、この地球は一つの周期からもう一つの周期に移ったそうであります。たしかに、私たちは一千年の周期に突入したばかりでなく、もっと長い二万六千年の周期を終えたばかりです。加うるに、地球の外皮すなわち地殻は、その自転軸に対して位置をゆっくりと変化させております。これは地球の四季―季節―の移り変わりを遅らせている変化でもあります。

一九五八年に、科学者は、太陽の北極と南極がその位置を変えたことを発見しました。アダムスキー氏は、世界的な気流と海流の変化のために気候の変化が起こるだろうと警告しました。イースト菌の発酵にも似た世界の人々の不安感はずべて、以上のような影響によるものであります。電離層を飛ぶあらゆるロケットも、私たちがそうした変化になれるまでは緊張感を起こす原因となっております。したがって私たちは世界の歴史で最も

並はずれた時代、たぶん最も危険な時代に生きていけると言えるでしょう。私たちは宇宙旅行の手段を持っている太陽系内の他の惑星群と合流するか、それとも石器時代に返ってしまいか、いずれかのチャンスを持っているのであります。

一九四七年に、近隣の惑星から、かつてないほど多数の人が地球へ来たとき、私たちは核爆弾による絶滅という脅威のもとに生き始めるようになりました。まさに宇宙空間へ入ろうとする私たちは善悪いずれかの意図をもって近隣の惑星群を必ずや訪れることでしよう。地球人の福祉問題の向上のために長く働いてきたこの近隣の惑星人たちは、第二次大戦によって延ばされた彼らのプログラムを続ける行動を起こしました。こうした材料を用いて空想科学小説を書くならば、あまりにも作偽的だという非難を受けるかもしれませんが、これは事実以外の何物でもないのです。

アダムスキーの偉大さ

かなり昔からアダムスキー氏は、宇宙開発に先行したUFO事件について熱心に個人的に関係したことを私たちは知っています。たしかに氏は、「自分のUFOの研究は一九三八年に始まった」と言っています。氏の講演によりますと、その年に氏はアマチュア天体観測家として天体を研究するかたわら、空中に一個の未知の物体を撮影したことは明白です。彼から写真を見せられたどの天文学者もその正体を理解できず、したがってその

物体は謎のままになりました。しかし、たぶん直感が彼の鋭敏な心を警戒させたのでしょうか？

アダムスキー氏は別な惑星から地球へ生まれ変わって来た人でした。そして氏の過去世における偉大な文明の記憶が氏の行動を導き始めたのでした。少年の頃に氏はキリスト教の基本的な原理を学びました。それからチベットのラサで東洋の哲学を四年間学びました。これは彼の自己訓練がバランスを保つように両方の哲学で直感を受ける必要があったのです。それにもかかわらず、当時から彼は将来の仕事を達成するために直感とテレパシーの力を必要としたのです。

一九四五年に、彼は助手たちと一緒にパロマー山の山腹へ移動し、そこでアリス・ウェルズ夫人がその地域では最初の軽食堂を開設しました。彼らの移動は偶然ではありません。アダムスキー氏が自然の観察から発展させた哲学に多大の価値を見い出した人のなかには、かなり地元の高い人々もいました。また彼は地方のラジオ放送局から放送もしています。その新しい冒険を奨励するほどに関心を持っていた人々の一人に、パロマー天文台と関係のあった故ジョンソン博士がいました。アダムスキー氏にギフトとして六インチ反射望遠鏡を贈ったのは、この天文学者のお母さんだったのです。

軽食堂は重要な場所になりましたので天文台を見学に来る科学者、軍人、学生などはそこへ立ち寄りて休憩したようです。この考え方、すなわち、ここへ軽食堂を開設したことは正しかったことがま



もなくわかりました。アダムスキー氏は新たに多くの重要な接触をしたからです。相当な地位につくと思われた科学者や軍人との接触です。

アダムスキー氏は、常に何か価値のある事を発言していったので、聞く人は必ず何らかの印象を受けました。あるとき、天文学者のグループが食事をするために立ち寄りしました。その当時、山上の天文台は「アメリカ地理協会」のための天文図を作成していたのです。それでアダムスキー氏は天文学者たちにむかって「あなた方は、観測装置なしに完全な星図を作れる人を、どのように思うか？」と尋ねたのです。当然のことながら科学者たちは、そんな人がいれば天才だと答えました。そこでアダムスキー氏は「もしその人が教育を受けていなかったとす

れば、あなた方はどう思うか？」と尋ねました。すると科学者たちの態度は急速に変まりました。

「そんな人と一緒にいれば、時間がムダになるよ」と彼らは言いました。

そこでアダムスキー氏は指摘したのです。我々の現代天文学の星図は、夜間に羊たちを見つめていた教育を受けない羊飼いたちに負うのであると。この人々は星々を天空の絵模様として描きながら時間をすごした人々なのだ。これは天文学者のだれも否定できない事実でした。

アダムスキー氏の質問の理由は、生命界における一つの重要な事柄を提示することにありました。つまり、自然が偉大な教師であるということなのです。自然から私たちが効果的な宇宙旅行の秘訣を学ぶことさえできるのであります。

パロマー天文台も UFO を撮影した

アダムスキー氏が落下する流星の数をかぞえながら流星雨の観測に協力していたとき、山中から一機の巨大な宇宙船を見たのは、一九四六年のことでした。この宇宙船はサンディエゴの上空を低空で通過したと新聞は伝えましたが、あまりに低く飛んだので、高いビルの屋上に入った人々は宇宙船の丸窓の所にいた人間たちを、実際に見たというのが真相です。

翌年、二百機以上のUFOが、ある夕方、カリフォルニアのこの地域の上空を飛ぶのが見られましたが、パロマー山のレストランを訪れた数名の科学者もこの事実を確認しました。彼らはこの物体の

発進地として「別な惑星」説をと考えたのであります。アダムスキー氏の「空飛ぶ円盤は着陸した」によれば、サンディエゴ付近の海軍電子工学研究所の二人の職員と、バサデナの別な軍関係施設の二人がレストランへ立ち寄りまして。この科学者がアダムスキー氏にむかって研究の協力を要請したときに、地球の衛星である月には人間がいると語った事実はあまり知られていません。そこでアダムスキー氏は不思議な物体の発進地を月に求めて研究することにきめました。

この海軍の職員は、アダムスキー氏が六インチ望遠鏡で何とかして撮影した宇宙船の写真を月並な説明で片づけようとしています。しかし、おおよけに知られていない事実があります。それはパロマー天文台も巨大な葉巻型宇宙船の写真を撮影していたという事実です、後に行われたフランク・スカリーと、科学者のサイラス・ニュートンとの対談のなかで、長さが三百メートルあるとアダムスキー氏が推定した宇宙船は、パロマー天文台の天文学者によれば長さが二万四千メートル近くもあったということです。

砂漠に着陸した小人宇宙人

UFOというものが脚光をあびるようになってまもなく、アメリカの空軍関係の責任者であるウォルター・ウィンチェルがラジオの全国放送網を通じて、宇宙船が砂漠に着陸しつつあり、あるときなどは数人の宇宙人が外へ出て歩きまわったと放送しました。この着陸は砂漠地帯

の着陸場所から約四十キロメートルも離れた距離にあるパロマー山から観察されたのです。パロマー天文台も軍の情報集めに協力していたようです。大体に確実なのは、アメリカの治安政策上、全国的な観測網がしかれて、これはその一部であったということです。

私はこれまでに多く尋ねられた質問、すなわち「なぜスペース・ビーブルはアダムスキー氏をコンタクトの相手に選んだのか？」という質問に答えるために、初期の歴史について言及しました。たしかにアダムスキー氏は、一般にUFOが脚光をあびるようになったとみなされる一九四七年という年代以前に、すでにU



F0の分野に足を踏み入れていたので。注意深い自然界の観察によって得られた彼の哲学は、別な惑星の生き方を正確にあらわしてはいました。これ以上にすぐれた人間が選ばれたでしょうか？とにかく、政府の要人や科学者たちなら、だれもすずんでおおよけに話そうとはしなかつたでしょう。しかもこうした人の多くもコンタクトしてはいたのです。

また、はつきりしているのは、大気圏外から来る訪問者に関して、その当時、いかに多くの情報を政府が確保していたかということです。大衆に対して続けて出された声明は、大体に、知られている事実をほとんど隠してしまいました。

アメリカの砂漠地帯でコントロールを失って降りて来た三機の円盤を米空軍が捕えたという記事を、フランク・スカリーが、その著書「空飛ぶ円盤の背後にあるもの」の中に掲載したとき、小人の乗組員の三十二名の死体を発見したという記事と共に公式に否定されました。多くの人はこの本をインチキとみなしました。がある奇妙な事実が含まれていました。

それは、フランク・スカリーに秘密の情報を伝えた科学者で、その書物ではG博士として出てくるサイラス・ニュートンは、ベテナーの罪名で刑務所へ入れられたという事実です。しかし一九五九年にアダムスキー氏が私に語ったところにより、サイラス・ニュートン博士は不法に非難され、秘密情報を洩らしたという罪によって米政府により処罰されたということです。

フランク・スカリーの 説は真実だった

しかし問題はこれだけではありません。というのは一九六〇年二月のロサンゼルスタイムズ紙は、スカリー氏がローマ法王ピオ十二世から聖グレゴリー・ナイトの称号と、イサベラ女王が創始した聖エリザベスの勲位を受けたと報道したのです。こうした爵位の一つはきつめて独占的なもので、その爵位を保持する前任者が死ぬまでは、後任者は待たねばならないのです。たしかに著者スカリーは、映画「バス停留所」の原作になったこの書物を書いたために法王から榮譽を授けられたではありません。スカリーの情報は世界の人々にとって価値のある贈り物であったのです。

ニューメキシコ州とアリゾナ州で発見された大気圏外の宇宙船の話にもどりますと、その宇宙船はオハイオ州デイトンのライトバッテリー空軍基地へ運ばれました。この基地は秘密試験を行うための空軍技術情報センターの本部になっています。アダムスキー氏は秘書と共にある極秘の会議に招待されて出席しましたがその会議で、墜落した小人宇宙人三十名の遺体がニューヨークのロックフェラー研究所へ送られて調査された事実が洩らされました。それらは完全な人間であることが、判明し、あとで葬られ、最後の葬式は一人の僧によってとり行われました。結局、法王ヨハネ二十三世が、どこから来た人間の死体であろうと葬儀を行ってよいという許可を僧たちに与えま

した。

したがって私たちは、一九五〇年以前に他の惑星から来た少なくとも三機の宇宙船をアメリカが所有したことや、一方イギリス、フランス、ロシア、ノルウェーなども地球へやって来た円盤を持っていくことも知っています。円盤が墜落した原因は地球の核実験による磁場の変化のためか、または強烈な放射線が円盤のキャビンに入ったかのいずれかによるものと思われまます。こうした事実を認識するのは重要な事です。というのは、公的なUFO調査機関であるプロジェクト・サインやプロジェクト・ブルーブックなどは、アメリカ政府がUFO問題をまじめに取り上げていることを大衆に大きく示そうとして意図されたものに違いないからです。UFOが存在することを証明しようとする限り、このもくろみは全く不必要でした。したがって公的な空軍調査機関は、アメリカが攻撃されるかもしれないと危惧の念をいだいている軍の将兵にとって非常に関心のある情報を集めていますし、一方、科学研究所の資料として、大気圏外から来る円盤の機能に関する情報も持っています。再度申し上げますと、この手段によって各国政府は大衆の反応をより良く判断できますし、大衆が大気圏外から来る物体について恐怖心を次第に失っているかどうかを判断することもできます。

スペース・ピープルは地球に潜入している

一九五五年に、ルッペルト大尉による

「UFO報告」が出ましたが、その刊行前にルッペルト大尉がパロマー山上のアダムスキー氏を訪れたということを大衆は知っていません。二人の談話において、プロジェクト・ブルーブックの元隊長たるルッペルト大尉は、もし地球製の宇宙船が火星、金星、土星などの惑星に到着したら、その住民はどのような反応を示すだろうかと質問したところ、もし我々が平和裡に行くならば歓迎されるだろうとアダムスキー氏は答えました。ルッペルト大尉はその回答に全くの同意を示したのであります。

砂漠における一九五二年十一月のコンタクトの後、アダムスキー氏は多くの公式な秘密会議に呼ばれました。彼は各種の関係団体へ入ることを許可した通行証を持ち、世界中の政府高官から相談を受けました。これは個人的な事でしたが、私たちは、政府高官は公式声明においてアダムスキー氏の体験を保証しようとはしなかつたことを知っています。彼の仕事は孤独な仕事でした。ときどき次のように質問する人があります。

「なぜ他の惑星の人々は発明品でもって地球人を援助しないのか？」

この回答は次のとおりです。彼らは、あとで述べるような目的をもつて地球の研究所などで絶えず働いているのです。スペース・ピープルからの贈り物の一つに、電気吸引力を利用して屋内のゴミを自動的に吸い込む装置があります。こうした装置がニュージャージー州の工場に備えつけられて、掃除の手間をはずき

ました。また、ある放射線を用いて無手術が行える機械があります。この装置は特にガンの手術に効果的です。アダムスキー氏はニューヨークのブルックリンの病院の院長から、この発明品を見せられました。

しかし残念なことに、こうした贈り物は大衆から隠されてきました。この世界では利益本位の経済システムが応用されていることを忘れてはなりません。したがって新しい発明もしばしば影が薄くなることは、テープレコーダーが蓄音機やレコードにとってかわってきたのと同様です。

同じような理由で、重力応用の宇宙船の利用も隠されていると推測できます。しかし、この新しい推進法をあまりに早く用いまずと、石油産業や原子力発電や水力電気施設などをだめにする事になるでしょう。しかし私たちは善悪いずれの目的にせよ重力場応用の機械がひそかに応用されてきたと言つてよいでしょう。この一つの明白な目的は、目撃者をひどく恐れさせているニセUFO報告の伝播にあると思われまます。

私たちがアダムスキー氏から知らされている一つの事実は、私たちの目撃するUFOのなかには、地球で作られたと思われる物があるということです。カナダ政府は、アプロ航空会社のターボジェット付き円盤型航空機よりもはるかに進歩した推進法を応用した機械の実験を行いました。

ラインホルド・シュミット事件の真相

ラインホルド・シュミットという人が一九五〇年代にインチキなUFOの資金集めをやってアメリカの司法機関により刑務所へ送られた事件の真相は次のとおりです。

彼は、ドイツ人科学者の乗った極秘のカナダ製実験機を偶然に見たのです。しかしそのパワー装置は大気圏外の円盤が接近したために作動しなくなつたので、科学者たちはふたたび浮揚させようと試みしました。シュミットは秘密を保つようと官憲から警告されましたが、彼はしゃべつたので、ついに刑務所へ入れられたのです。

レナード・クランプの重力場理論は正しい

イギリスでは航空技術者のレナード・G・クランプ氏が、イギリス政府のために早くから重力場航空機的设计に従事していました。一九六五年に出た氏の最後の書物、「ピース・フォー・ア・ジグソー」で、氏はかなりの進歩をとげたように思われます。この書物はカバーに円盤のカラーデザインがつけてありますが、その中でクランプ氏は最初の書物「宇宙・引力・空飛ぶ円盤」で擁護しましたように、やはりアダムスキー氏の体験を擁護しています。「宇宙船の内部」という本の中に掲載された円盤の内部を示す見取図は、クランプ氏がこの特殊なデザインを分析するのに役立ちましたし、そ

れが作動する事実を確証するのに役立ちました。そしてまた彼は、巨大な母船のデザインも実用的なものであることを感じたのであります。

イギリスは七〇年代までに宇宙船を持てると思われていたのですが、カリフォルニアで製作されていたアメリカ製宇宙船と同様に、全く大衆の眼にはさらされませんでした。一九六五年の昔に、地球で作られた本物のUFOによる金星への旅が計画されていたのです。その宇宙旅行全体と着陸の光景は大衆にテレビ放送されることでしょうか、このような旅は少なくともおおよけには試みられませんでした。

クランプ氏はフランス空軍のパイロットであるランチュール中尉と同じ結論に達しています。つまり、UFOは推進力を得るために宇宙空間の基本的なエネルギーを利用してゐるのだということであり、古代人が「光」と呼んだ光子のレベルで私たちは全空間を満たす基本的な力を見出しませんが、この力から太陽や惑星などのような個体が生まれまゝす。引力、磁気、電気などは、たしかにこの宇宙的な力の低次な波動であります。

この二人の研究から明らかなのは、大気圏から来る宇宙船は、無限の宇宙的力を源泉として応用する重力場を作り出しているということであり、この重力場は船体の外部の小さな一点に集約されます。実際は、宇宙船はこうした二点を作り出しますが、上方の一点は正常に引き寄せますし、下方の一点は反発しま

す。この下方の一点が正常な重力に反して作動するので、船体は上方から引張られると共に下方からは押し上げられます。船体が浮揚力の一部分を水平飛行に移し替えるには、ヘリコプターのように望みの方向に傾きさえすればよく、そうすればその方向に推進されることになり、注意すべきは、一船体を静電氣を用いて推進させることは可能ですが、このような方法は内部がコントロールされないために急速なターンや停止ができないということです。

ところが先程述べました二つの焦点を利用すれば、船体の周囲に無重量状態が生じることになり、このため激しい旋回が可能になります。空気の摩擦も生じないことになり、こうして利用されるエネルギーには副産物ができません。つまり、熱や化学放射線と共に強い磁気や静電氣の場が生じます。船体は静電氣によって強くチャージされますが、これは一九五九年、ニューギニアのパプア島におけるジル神父の目撃報告から私たちが知っているとおります。神父が大気圏外の宇宙船の一つの周囲全体に青い輝きを見たことを思い出して下さい。

UFOに関して何度も報告された別な現象としては、空中に静止しているときに、船体のまわりに雲が形成されたという現象です。船体を取り巻く空気が上部で圧縮されて冷えるために雲になるのです。クランプ氏も同じ基本的な理由からUFOの形が見かけ上、ゆがむことについて、すぐれた説明をしています。船体の下部の空気が反発点によって希薄にな

ります。そして一方、上方の吸引焦点により濃密化します。これは船体自体ばかりでなく、それを取り巻くあらゆる物質も影響を受けるにちがいないと見えます。希薄化した空気は船体の見かけ上の縮み状態を引き起こし、一方、その反対の現象が上方の濃密な空気で行われます。

私たちの電氣系統に対する干渉や空気の攪乱、熱、化学放射線が円盤により発生するかもしれないとクランプ氏は確信しています。そればかりではなく、エネルギーの下部の焦点が地面に接触するとき、植物をべしゅんこにしたり焼いたりするとも考えられます。もし地球人が着陸地点へやって来て乗組員を妨害するならば、円盤は急速に離陸するでしょう。その場合、パワーが強すぎるので、爆発したみたいに大量の土をはね上げるでしょう。以上の二名による価値のある研究にもかかわらず、多くのUFO研究グループは、現在の科学ではUFO現象を説明できないといまだに言い続けています。一九四七年頃の私たちの知識のレベルは高くはなかったでしょうが、今はたしかに高いのです。こうした事は反対者に「UFOは科学では解決がつかない」と教え込むようなものです。

円盤の下部のパラボラ状の曲線は、下方の焦点を形成するためにエネルギーを下方で一点に集中させるためであると思われ、レナード・G・クランプの考えによれば、三個の球は、より小さな第二次フィールドの発生器であり、これは船体を安定させるばかりでなく、三個の内、一個に強いエネルギーを送ることに

よって、一方へ進行させるために用いられるということです。中央の磁氣柱は二種類の第二次フィールド発生器を収納するために用いられるもので、その一つは船室の上部に、他の一つは下部にあって、乗組員の身体にかかる重力を調整すると考えられます。中央の磁氣柱は遠方の光景を拡大する光学的な効果を持つというのには驚くべき事ではありません。その画像は上部から下部のレンズに投影されます。応用されるフィールド(複数)が以上のような各種の効果を生み出すことは明白です。

また私たちは、アダムスキー氏の腕が強力な静電氣でチャージされた円盤のフレンジの下に偶然に来たとき、何が起こったかを知っています。クランプ氏によれば、これは、自然の状態にすぎないので、円盤がニュートラルの重力状態であったために、静止している円盤が砂漠の風に吹かれて揺れたのだと説明しています。それは無重量状態と考えられ、したがって、つなぐられた気球のように揺れたので、アダムスキー氏の主張が、いかにうまく科学で裏付けられるかということが、これでわかります。

例の三機の円盤の押収後、地球でUFOが急速に製作されなかったことは驚くべき事のように思われるでしょうが、作動のために必要な船体の小部分は、コントロールを失ったときに自動的に破壊されるとも考えられます。宇宙船は当時の私たちの科学技術をはるかに超えた材料を用いていたことは間違いありません。しかも円盤の制御盤は、サイライス・ニ

ユートンによると、すぐにはずされてしまいました。空軍関係者の側にとつては、つまらぬ記念品にすぎなかったのです。このような事は信じられないように思えるかもしれませんが、反対者の圧力があらゆる官僚に到達することを思えば容易にうなずけることです。

本物の円盤は製作されていた！

一九五九年にオーストラリアのプリズベーンを訪問したあいだ、アダムスキー氏はゲストとして招かれたアメリカの最大の電気会社の一つに対して自分の訪問のことを話しました。すると、その研究員たちが、彼にむかって、彼が見た円盤に関する要点をざっと話してくれと頼みました。結局、彼らは小型の円盤のモデル（複製）を製作しましたが、これは人間が乗って部屋の中を移動できるものでした。しかしこれはパワーを通すための電気のケーブルにつながれていたために、これ以上は動かせませんでした。それにしても、ずっと以前、地球人は困難に打ち勝って、本物の重力場エンジンを製作していたのです。

私たちは今やUFOの分野から別な重要な発見の分野に軽々しく眼を移しています。しかし、ここでは、あとで宇宙旅行の問題に返ることにしましょう。これは地球上の未来にとって非常に重要であるからです。

報告された出来事を注意深く追跡してきた私たちは、多くの国の科学者が地球上の物理データを同時に記録するため

に、世界的な観測網を組織したことを知っています。六十七カ国が参加している「国際地球観測年」は一九五七年に開始されましたが、これは最初の人工衛星が打ち上げられた年です。その組織は、一八八二年の「国際極地観測年」の実例からヒントを得たもので、一九三二年から三三年にかけて繰り返されました。この国際的協力によって非常に多くの情報が得られましたので、その仕事が続けられてきたのです。

各国間の協力

国際地球観測年の組織者の一人であるトロント大学のJ・ウィルソン博士は、次のように書いています。「国際地球観測年の最も価値のある仕事は、政治的な圧力グループが各国を敵国に仕立て上げようとしているときに、科学界で国際的な協力を再確立したことであった」「私が最もしばしば尋ねられる質問は……：国家間で、特に東側と西側とのあいだで、本当の情報の交換があったかどうかということであった。これに対してウィルソン博士は次のように答えています。「たしかに情報の交換があった。これは科学者が友好的な雰囲気の中で一堂に会して、集められた情報やアイデアや、発見などを討議する機会があったからである」と。彼は次のように続けています。

「スタートは宇宙空間の探検で始まった。そしてこれは人類愛と兄弟愛の感覚を呼び起こすものになった」

近年になってからは、各国間の協力は

減少したようですが、希望を失ってはなりません。九月には、米ソ共同で声明を出して、大気圏外に多数のネズミを打ち上げて環境の影響を調べようという共同実験を行うということであります。これにより両国間の関係は改善されるでしょう。

アイゼンハワー大統領がNASAの前身であるNASAを開始する法案に署名したとき、彼は一八名の個人的な顧問の忠告にさからって署名したのでした。私たちGAPのメンバーは、地球の宇宙開発計画は大気圏外から来た友人たちによって始められたことを知っています。その最初の目標は、地球の「戦争経済」を「宇宙経済」に変えることにありました。つまり、武器の生産を次第にやめていって、自然の環境を調査するための宇宙船の生産に切り替えるのです。二番目の目標は、宇宙空間の諸状態について貴重な知識を得ることにありました。三番目の理由は、私たちの心を、つまらぬケンカや差別からそらさせて外方へ向けさせる必要が多にあったことが認識されました。このようにして結局、私たちは自分の場所を太陽系連合のメンバーとみなし得ることになります。私はアダムスキー氏がこの仕事で演じた役割について話したいと思います。

多数の有名人が

コンタクトしている

私たちにわかっているのは、アダムスキー氏ばかりでなく多くの人がスベイス・ビーブルとコンタクトしているとい

うことです。そのような人として、アイゼンハワー大統領、ヘルマン・オーベルト、フォン・ブラウン、カナダのウィルバートB・スミス、メッセル教授などがいます。しかし大衆の耳に決して届かない多くの物事が行われました。アダムスキー氏は五度の機会にわたって、ワシントン市の政府関係会議に招待されました。四度にわたって国連に呼ばれていました。ちょっと考えてみますと、アメリカが国内に国連の本部を設置することに同意したのは偶然ではないことがわかります。また、アダムスキー氏が幼年時代にアメリカへ連れてこられたのも偶然ではないでしょう。アメリカはときとして極端になる国ですけれども、新しいアイデアが実現する好機のある国です。

科学者もアダムスキーと 行を共にした！

大気圏外の宇宙船が地球の上空を飛んでいる様子を見て、わが科学者たちは宇宙探検の思いに燃えたのです。科学者はだれにドアイスを求めればよいのでしょうか？ 彼らはアダムスキー氏がすでに宇宙を飛んでおり、数名の科学者がその旅行でアダムスキー氏と行を共にしたことを確実に知っていました。したがって、地球の周囲をひそかに飛んだり、大気圏外の諸状態に関して確実に何かを知っていたり、近隣の惑星の人々によって宇宙旅行が達成されていることなどをすでに知っていた小グループがアメリカにありましたし、他の国々にもそうした人々があったのです。

政府関係筋や航空宇宙関係の会社は、このすごい知識を持つ、一握りの人々をノドから手が出るほど望んでいました。アダムスキー氏はそのなかでも最大の知識を持つ人でした。一九五〇年から一九六四年までは、科学のみならず地球上の文明の進歩にとっても黄金の十四年間でした。この時期は、サイレンスグループ（注）反アダムスキー妨害グループ）はさほど強力ではなかったのです。

アダムスキー氏がいかによく知っていたかという実例をあげることにしましょう。オーストラリアのブリスベンで講演したとき、二千名以上の人が来ましたが、アダムスキー氏は、他の惑星が地球の人工衛星の一つを妨害しているという最近の新聞記事に言及しました。しかし近隣の惑星が地球を回る人工衛星に微小な重力の影響を与えることは不可能です。そこでアダムスキー氏は説明しました。これは実際は、人工衛星の調査をやっている大気圏外の宇宙船が接近したために、人工衛星の軌道を狂わせたのであると。

したがって、宇宙問題の関係者は私たちにあるニュースを伝えますが、私たちはそれを聞くときに十分に注意する必要があります。それは今も用いられている技術であることに注目するのは賢明です。

宇宙空間の真相

アダムスキー氏が宇宙旅行において、私たちのスペース・プログラムを助ける

のに何を発見したのでしょうか？ 最も重要な物の一つは地球の周囲の放射線帯が存在することでした。それが核爆発実験から出る放射能をとらえたのです。私たちは、もし核戦争が始まったならば、放射能が大気圏外にも漏れ出て、そのために近隣の惑星群の人が宇宙旅行をするのは危険になると警告されています。それから数年後に、科学者はバンアレン帯のおかげで、核実験から出る放射能は、かつて考えられたように宇宙空間に逃げないという事実を発見しました。私たちはチリが降りかかってくるごとに、食物の中にストロンチウム九〇のごとき、ひどい元素を絶えず食べているのです。

宇宙空間の状態に関して、私たちは、ホテル火のような無数の荷電粒子が到る所に充満した暗黒の情景について知らされました。ロケットのカプセルの周囲にホテル火のように輝く斑点を最初に報告したのはジョン・グレン中佐でした。この現象は船体周囲の氷の破片によるものと説明されました。しかし私たちは、米ソ両方の科学者によって発表されたその宇宙の状態は、虹のあらゆる色の中に輝くイオン化粒子で満ちた地帯であるという事になっていきます。実際には、それはプラズマなのです。

さて、月の問題に移りましょう。多くの新たな関心がその表面に示されているのは、円盤が脚光をあびるようになってからです。アマチュア天文家は月面の研究で援助してくれと米国防省から要請されました。これはアダムスキー氏がUFOの研究で公式に援助してくれと要請さ

れたのと同様です。一九五〇年代に、科学者たちは月の表面に丸い、白いドームが増えるのを観察しました。しかし一世紀以上にわたって多くの霧や雲が目撃されていたのです。実際、一九五七年に天文学者は、月面上に知的活動があることを確信しましたので、「ブルーブック」と呼ばれる刊行物を出しました。世界にとって奇妙と思われる月面上の多数の現象をリストにした後、その刊行物はまさに今、月面では建築ブームが発生していると述べています。

しかし月に人間を送り込む仕事をやった人々に知られていない事実の一つは、月の地殻の堅さです。その表面は宇宙船が沈み込むほどの柔らかいチリにすぎなかったのでしょうか？ アダムスキー氏の「宇宙船の内部」を読んだ人は、月の土に関して完べきな説明があることを知っています。更に加えて、彼は丘の中に流水によって作られた水路跡のことを述べています。これはアポロの写真でも容易に見られます。

月の裏側に存在する生命の証拠は、フランスの雑誌「ベリマツチ」に掲載された多数のカラ写真の中に見られます。月の裏側には、幾何模様の白いドーム、樹木や森などの緑地帯、湖水などを見ることができます。一九五九年にアソウシエイテッド・プレスが出した「月面の足跡」の中には、あるクレイターの中に明瞭な細部が見えますが、これはかなりの大気存在を証明するものです。別な刊行物の同じクレイターの写真では、その影が完全に黒くて、画家がそれを修正し

たことを示しています。別な例では、植物や水の跡はグリーンフィルターのボカされています。とにかく、一九五九年の九月に、月の周囲に確実に大気があることがルナ二号により発見され、ゴダード宇宙飛行センターが発表しました。

アマチュア天文家ジョージ・レナードの「それでも月に何かがある」という本の中で、アダムスキー氏の記述をきわめて価値あるものにするような、大規模の構造物と採掘作業が存在することがわかります。実際問題として、デンマークのハンス・ビーターセン氏と、後にはステックリング氏がNASAの写真を拡大して、月面上の知的生命のシルシを多数発見しました。ベルギーGAP宛の手紙でレナード氏は、次のように言っています。日本の天文家の一人が月面上でヨーロッパ流の文字（複数）を発見したが、一方、自分はサンスクリットとルーニック体の文字を発見したと。彼の考えでは、火星の衛星の一つは、確実に人工的な物であり一方、火星には多くのシンボルがあるということです。

火星上に知的生命が存在する証拠をすべてあげれば多くの時間を要します。ただ次のように言えばよいでしょう。火星の表面で撮影された直線の模様は、NASAがあとで否定しているけれども、確かに存在すると。この直線は、一九五四年の国際天文プロジェクトである「火星パトロール」によって、大きな円形の路に続くことが発見されました。大きな円というのは、球体上では最短距離であることを私たちは知っています。

火星が永久に凍っているものとすれば、なぜ霧や雲などが発生するのか、というようなNASAにも説明できない現象が他にも多くあります。あるいは、こんな薄い大気の中でできた巨大な砂丘など。その薄い大気ではバイキングがパラシュートで降下するはずはないのに——。もう一度言いますと、なぜアメリカのCIAは、現在火星にバイキングの記録装置を作るために、TRWと呼ばれる私立の会社をスタートさせたのか？金星はどうかといいますと、トタンを溶かすといわれるほどの高温の中で、二個の探査機がいまだに作動し続けているというのは奇妙なことです。

宇宙開発の困難さ

しかし宇宙開発から受ける多くの利点を考えてみますと、それらは多数あります。宇宙のきびしい条件の中でテストされる特殊な材料や処理法などから、私たちが日常生活でいかに多くの発達を上げているかを認識する人はほとんどいません。気象、通信、食物源の探査などに用いられる衛星は、別な利点をもたらしています。その全部をあげればたいへん長くなります。

一九五九年にニュージーランドのオーランドで講演を行ったアダムスキー氏は、大気圏外へ出かける志願者を米政府が広告で募った件に言及しました。志願者は他の惑星の人間に会ったとき、立派に振舞うように要求されるでしょう。彼らは敵意を持つように教えられないでし

ょう。

そこで一九五九年にさかのぼりますと、地球の私たちは宇宙空間に出かけることを考えていました。この計画に何が起ったのでしょうか？たとえ一九六五年に金星へ人間を送ろうという計画です。明らかなのは、当分の間、このような計画は棚上げされてきたということです。宇宙の自由エネルギーを応用する重力場推進のアイデアは、石油業界、石炭業界、水力発電または核セクターなどで従事する人たちにとって脅威でした。したがって私たちは、一時的に、もっと身近かな技術、もっと複雑で金のかかる技術に走らねばならなかったのです。

宇宙の植民地

ワナーブックスの、ヘブンハイマーによる「宇宙の植民地」という本を読んだ人は、アメリカの一流航空宇宙関係の会社の多数の人や、NASAそれ自体によって、いかに多くの研究がなされてきたかをご存知でしょう。私たちはこの地球上に充滿すると思われる余分の人口を収容するために、巨大な構造物を宇宙空間に建設する準備をしています。少なくともこれはあらゆる巨大な研究や発達のための理由なのですが、大衆に対する説明という点になると、だれも真相については必ずしもよくわかりません。この地球は、もし別な惑星の大母船の中でやっているように電子工学的な方法で野菜を作るならば、五十億ないし六十億の人間を養うことができるとアダムスキー氏

は言っていました。この方法はすでにシカゴ大学でうまく行われていますが、しかし明日、一般化するわけではありません。なぜなら多数の農民が失業するからです。

宇宙都市を建設する別な理由は、地球にエネルギーを送るための巨大な太陽反射鏡と発電機を建設することが可能となるからです。現在のエネルギー危機を考えると、炭水素燃料にかかわる物はたしかに必要です。もちろん私たちは大気中から宇宙の自由エネルギーをとらえることはできません。彼の二番目の著書で、ブルース・キャシー大尉は、すでにニュージーランドのある部分に設置された実験用アンテナについて述べています。多くの国もこの自由エネルギーに気づいていることは明らかですが、明日、実現するわけではありません。

現状からみて、私たちは宇宙空間に太陽発電機を設ける必要は妥当な事だということを確認しないわけにはゆきません。これに加えて、地球上の多くの無機物の急速な不足があります。特に銅、鉛、亜鉛、クロミウムなどです。鉱石のより以上の供給を確保するために、科学者は、莫大な無機物を持つ月の方に眼を向けてきました。カリフォルニア工科大学の学長ジェラルド・ワサーバーグ博士は、科学者は今や鉱石の豊かな貯蔵庫として月について語っていると述べています。ヒューストンの月・惑星科学研究所のデービット・クリスウェル博士は、呼吸及びロケット推進燃料用として、酸素が抽出されるだろうと述べています。NASA

のドレック博士は次のように要約しました。「我々は月の鉱石を掘り出して精製する方法をまだ知らないのだが、そこで働いているのだ」と。

私たちがこうした地球の必要物を認識するとき、ジェラルド・K・オニール博士の基本的なアイデアに感謝するとよいでしょう。博士はプリンストン大学で、宇宙空間に植民都市を建設する案を創始した人です。一九七五年にはNASAはオニール博士に資金を与えて研究を続けさせました。昨年十月十九日にアメリカでNASAの計画に関して放送されたテレビ番組の中で、そのプロジェクトの科学者の一人であるブライアン・オリアリーは、地球に必要なエネルギーの四分の一を供給するために、宇宙空間に百二十個の太陽熱発生器を必要とするだろう、と言っています。数千トンの材料を持ち上げるのに多数のロケットを用いれば、燃えた燃料で大気圏が汚染されるでしょう。そこで、もっと良い方法は、引力や気圧の弱い月から原料を取り出すのです。電磁気で作動する大量の加速機を用いれば、鉱石の大きなコンテナを宇宙空間に持ち上げます。そこで鉱石は精製され、太陽反射鏡や宇宙都市に必要な大建造物を作るのに用いられます。応用される推進法は、一九七二年に日本の列車ですでにテストされたモーターと同じ物でよいでしょう。

ステックリング氏の

驚くべき説明

宇宙都市は回転する車輪型またはシリ

重力場推進法が重要

ンダー型にして建設されるでしょう。そのアイデアは、植物や動物などを持つ自然のシステムを形成します。実際には、この途方もない計画の詳細は、最上のタイプの作物や動物から、材料や建設法に至るまで考案されました。宇宙の人工島の興味深い様相の一つは、一つのシリンドラーの中に莫大な量の空気をとじ込めることにあります。この空気の量は、天候を雨などのともなった自由な状態にするほどの大きな量になるはずで、ステックリング氏は、アダムスキー氏が与えた情報に対して科学者の結論の類似性があることを指摘しました。一九七八年六月発行の「コスミック・ブレティン」には、ステックリング氏による記事が出ておりますが、それによりすると、彼は他の惑星の巨大な母船の内部の自然な環境について述べています。その内部は、つめられている空気の量が多量にも大きいので、空が青く見えるし、雲も形成されるというわけです。

さて、宇宙空間にこの建設を始める予定の時期は、一九八二年とされています。この時期に対して現在の燃料不足がどのような影響を与えるかは推測の域を出ません。しかし「宇宙の植民地」の著者もテレビ番組の「スタートレック」のそれと全く同じような巨大な衛星船の可能性に言及しているのは興味深いところでは、「スタートレック」の空想の衛星船に用いられる科学技術を分析しようとしてまじめな記事が書かれてきたのです。人々は尋ねます。「我々はこのような複雑な装置やコンピュータなどが作れるだろうか？」と。

そうである、こうした衛星船のモーターを開発するには五十年を要するでしょう。これは放射線の微小物質を圧縮することによって強力な推進インパルスを生じさせて作動するものです。私たちは四十三年後にこの方法によって最も身近かな太陽系に到達するでしょうが、それは長すぎます。しかも太陽風のあいだに起こる放射線の激的な増大から乗組員を保護するという難問も残っています。これは宇宙都市と同じほどの難問です。

政府の計画者が心にいだいている事を正確に推測するのは不可能でしょうが、私たちは宇宙空間の植民地や衛星船や、大気圏外生命の探究とかのアイデアを持ち寄ることはできるでしょう。私たちの宇宙探検のもとのアイデアは捨てられなかったと思われまふ。今のところは、重力場の応用は一時的にさげられてきましたので、従来の線に沿って続けられてきました。この方法によって私たちは、

技術の過信は身を減す

武器の生産に雇われたかもしれない多くの科学者や技術者の雇用を見出す一方、技術上の知識を得続けることになりま

す。

明らかなのは、もし私たちが宇宙空間植民地として構想を描いている巨大なシリンドラーの一つに重力場推進法を応用できるならば、私たちは容易に宇宙を探検できますし、一方、同時に、致命的な放射線や宇宙ジンを防ぐことにもなるという事です。こうした事は、宇宙旅行にまだ多くの問題を残している噴射推進方式よりも、もっと急速に実現するかもしれませんが。かつてアダムスキー氏によって驚くべき声明が出されました。地球はわが太陽系中で最も技術的な惑星だと彼は言ったのです。これは真実です。なぜならば我々の経済システムの圧力は、利益本位の各種の乗物や装置の生産を強行します。発達した国のだれでも、作動の原理を知らなくても装置についてはボタンの押し方ぐらいは知っています。

こうした要素に加えて、非常に多くの新しい発明が軍事上の武器に応用されています。アメリカとソ連は一種の宇宙戦争をやっています。つまり、レーザーを使って相手のスパイ衛星を破壊しているからです。彼らは原子を集約することによって殺入光線を開発して恐るべき武器を作りまし、一方、多くの国が各自の実験を遂行しています。ソ連もアメリカも月に人工基地を確立しましたが、これは軍事技術によるものです。私たちは過去のサイエンス・フィクションが現実のものになった時代にいます。危険が現実化したのです。しかしそれは、古いシステムが新しいシステムにとってかわるときに、通過しなければならぬ時代でもあります。

したがって、失望しないことにしようではありませんか。ジョージ・アダムスキー氏の次のような重要な言葉を思い起こして下さい。「我々の文明の存続は、宇宙開発にかかっている」。こうした事を認識して私たちGAPは世界の進歩に役立つための責任を見出し得るので、私たちは他の惑星の人々の賢明な援助を受けており、一方、私たちは協力こそ力であることに気づいています。

本日、皆様方にお伝えしたい情報もつとありますが、時間がありません。したがって不本意ながら、これで終えることにし、日本GAPの皆様方の努力が実を結ぶことをお祈りします。

ご静聴、ありがとうございます。



ヨーロッパのUFO事情、ベルギー GAPの活動とアダムスキーの思い出

メイ・フリットクロフト

日本GAP会員の皆様。

こうして皆様のお国を訪れ、IGAP計画の会員とお目にかかり、大変嬉しく存じます。

また皆様にお話し出来ます事は大きな光栄であり、勿論、ジョージ・アダムスキー氏とベルギー、広くはヨーロッパにおけるBUFOI（ベルギーUFO研究会。ベルギーGAPの正式名）の活動についてお話しする訳ですが、それは大変広い領域に及びますので、限られた時間内にとにかく最善をつくしたいと思えます。

私はどのようにして UFOに関心を持ったか

一九四七年、ある幾つかの出来事がベルギーUFO研究会の創立をうながしました。いわゆる空飛ぶ円盤が私の興味を引いたのです。私は、アトランティス大陸とかムー大陸の様な特殊な問題について父親が抱いていた並はずれた好奇心を確実にうけ継いでいたのです。とはいえこの地球外からの来訪者に対する私の関心が、現実的段階に私を引き入れたのは、一九五四年になってからでした。

ジミー・ギューというフランス人研究者により初めて書かれた素晴らしい本を読んだ後、私はフランスのUFOに関する

第一のグループ、OURANOSの当時の指導者、マルク・チロワンはじめ、世界のあちこちのグループに手紙を出しました。

同じ時期、アダムスキー氏に対して、決して好意的とはいえないエーミ・ミッシェルによる幾冊かの本が出版されました。一方、アダムスキー氏による「空飛ぶ円盤は着陸した」が出版され、それを読んだ私の中で、すでに鈍くなっていた関心は熱狂へと姿を変えたのです。さらに彼の二冊目の本、「宇宙船の内部」を読んだ時、これこそ、大変な重要性を含んだ本だと感じたのです。

とはいえ、この時期、ヨーロッパでは地球外の文明に関する視点は一般的に否定的だったのです。しかしいくらかの人々は、私も含めてですが、それを異状であるとか不可思議とは考えず、全く自然に受けとる者がおりました。

それはまだ先駆者の時代ではありましたが、私たちは卑俗な批判の前で悩んだりする事はありませんでした。

このころヨーロッパの研究者グループ間の協力は最も親密なものでした。

時間の旅行、または地球に似た宇宙からやって来る乗物などというバカげた主題をもつ著作はまだUFOの領域には入ってきていませんでした。

時間空間からやって来て、我々を訪れる乗物があるなどというのは、全くの誤りです。しかし一般的に言って、当時の人々は、今日、我々が見上げる様な混乱のうずには巻き込まれてはいませんでした。現在の誤解は、反対意見を唱える人及び、ある種のグループの利己的な利害関係の中で、故意に生みだされたものだからです。

さて、私は一九五四年十月のことを良く覚えております。この時期は、私共の国、ベルギー、フランス、イギリスにおけるUFO観察の最も重要な時で、私は、この時まだ幼なかつた二人の息子と共に、初めてUFOを目撃したのです。後年、この息子たちはBUFOIの仕事について、本当に良く私を助けてくれています。

五年後の一九五九年、私はアダムスキー氏に手紙を出し、世界各地のIGAP会員の住所をお返事と共に頂いたので、勿論、その人たちに手紙を書きました。ここにおられる久保田八郎氏からの友情あふれる初めてのお返事を初め、他のIGAP組織からの通信を受けとつてから、もう二十年も経っていると思うと、なつかしく楽しく思います。

翌一九六〇年六月二十六日のパリにおける集会では、ウラノスIIフランスの故マルク・ティロワン氏、GEPALネ・フェリー氏をはじめとするUFO研究の先駆者のすべてが一同に会しました。

しかし大部分の人はアダムスキー氏の出した要求を熱狂をもって受け入れよう

とはしませんでした。

私の身に大きな出来事が起こったのは一九六一年の五月でした。その前に当時のIGAPスイス支部会員のルー・ジンスターク、フランスIGAPのシュザンヌ・ソニエ夫人と私の間でルクセンブルグで会合を持ちました。

それに引きつづき、間もなくデンマークIGAP会員のハンス・ビーターセン少佐との出会いに恵まれたのです。

かくして一九六一年五月、息子パトリック、友人のラウル・ビータース夫人と私で、我々の組織BUFOIを創設したのです。BUFOIと名づけられた我々の機関誌は、国際語であるフランス語で出版され、多くの攻撃にもかかわらず、十九年目を迎え、さらに発行され続けております。この時期、充実した活動の中で、ビーターセン少佐、ルー・ジンスタークとは、お互いの国を行き来し、何度か会合をもちました。

スペース・ブラザーが アダムスキーに警告

同一九六一年十二月、私はアダムスキー氏によりIGAP協力者に指名され、宇宙の来訪者の実在を地球人に認めさせる様に導びく努力を、他の会員と協力してすすめる事となつたのです。

これに先だつこと二年、一九五九年、午前中に夫が触れました通り、アダムスキー氏はオーストラリアを含む、初めての世界旅行を決定したのでした。この時彼はローマでローマ法王ヨハネ二十三世との会見を期待していましたが、幾つ

かの理由から、これは実現されませんでした。

この時、私自身も病に伏しておりましてので、一九五九年五月、ハーグでアダムスキー氏とお目にかかるチャンスを見ました。

四年後の一九六三年、アダムスキー氏のベルギー訪問が計画され、私の予想を超えて、すぐに実行に移されました。さらに加うるに、様々な状況をふまえて、実際の彼のベルギー入りは予定より数日早くおこつたのです。

その時に起こつた不思議な出来事を理解して頂き、ローマ法王ヨハネ二十三世に関する話題へつなぐためには、アダムスキー氏のデンマーク到着からお話を始めなければなりません。

元英国IGAP会員のロナルド・キャスウェル氏の覚え書きによると、ローマへの道程は一九六三年五月十二日、朝八時、コペンハーゲンのそばの小さな漁村から始まりました。

実際のところ、アダムスキー氏はこれより一週間前の五月五日、すでにデンマークに到着し、ビーターセン少佐の組織に迎えられていたのです。

ユトランド半島のフレデリックスで七百人以上の出席を得て催された講演会は完全な成功を収めました。彼はまたそこで『太陽の子等』の著者であり、アダムスキー氏がオーストンから、帰り道に手に入れた陰画と全く同じ象形文字を南アフリカで発見した考古学者であり探検家のフランス人マルセル・ホメットとめぐり合ったのです。

この二人の間の会話がほとんど世俗的問題に終始したのは残念ですが、個人として彼らの間に共通なものは全くありませんでした。

アダムスキー氏はベルギー、スイス、最後にローマを訪れる前に、まずフィンランドへ回り、そこで、フィンランド大統領を迎えて講演をする、と発表しました。

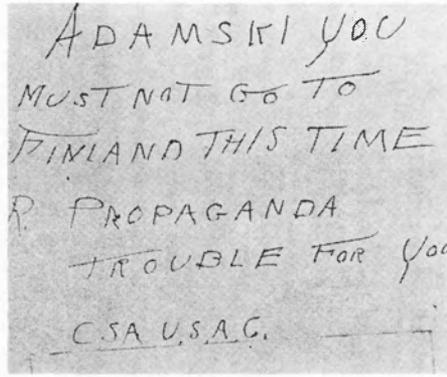
あるジャーナリストのインタビューの中で彼はUFO活動が宗教と混同されていると嘆き、それはずっと何度も説明している通り、科学的問題なのだと重ねて表明するのでした。また、ほほえみながらローマ法王を聴衆の一人にする可能性を述べ、少なくとも枢機卿たちに話をすることは可能であることを認めました。彼はすでに一九五九年、ローマにおいて旅行中に、約四十人の枢機卿の前に話した事があつたのです。

ヘルシンキへの旅行について触れると決してそこへ行かなければならなかつたのではないのですが、ビーターセン少佐の家で十日間程を過ごしたアダムスキー氏は急に思い立って、ビーターセン少佐を伴い、コペンハーゲン行きの飛行機に乗つたのです。

町に近いホテルで手続きをした時、アダムスキー氏を連れていった人は、すでにだれかがアダムスキー氏が到着したかどうかを聞きに来たという事を知らされてびびくりしました。

その日の夕方、軽い休息をとつた後、六時頃、アダムスキー氏はドアの下にフィンランドでの宣伝活動についての警句

スペース・ブラザーがアダムスキーに与えた警告書。
「今回はフィンランドへ行くな」と書いてある。



時を過ごし、軽い夕食の後で私たちがホテルまで彼を送ったのでした。

ブラザーズが常に出現した

これは五月十四日、水曜日の出来事でした。翌木曜日の朝、私と息子パトリックが彼を尋ねると、彼はまだ回復しておらず、ほとんど一日中、ホテルの自分の部屋で休みたいとの事だったので、私たちは彼が私たちを必要とする事もあるのではないかと考え、彼のホテルの近くに留まったのです。しかし、そんな状態にもかかわらず、夕方には私たちの家へ来られて、夕食を共にしました。

一枚のメモを見つけたのです。そしてそれには「アダムスキー、あなたは今回フィンランドへ行くてはいけません」と書かれていたのです。翌朝、朝食前、彼は棧橋を散歩し、そこで一人の男と話をしたのです。私たちは、その男こそアダムスキー氏が一九五八年にアメリカで出会った宇宙人であったと確信しています。

多分、この時、アダムスキー氏はローマ法王ヨハネ二十三世と会見できるだろうと知ったのだと思います。

予定よりベルギーに早く着いたアダムスキー氏はフィンランドでの気疲れのためか病気になる、悪寒に顔をゆがめていたので、その午後、彼は私たちのそばで

翌金曜日、彼は大分良くなりました。彼は私たちに、宇宙人が彼の健康回復に手を貸してくれたのだと言いました。五月十八日の日曜日、ヨーロッパの幾人かの会員と私たちは、アントワープにあるロールモクスというレストランへ出かけました。そこに、私たちから遠くない所にアダムスキー氏と私たちの会話にひどく関心を持っているらしい客が一人座っていました。彼はアダムスキー氏をじっと、じろじろとながめていました。その男が出て行くとう立ち上がったとき、アダムスキー氏は、あなたは宇宙人を見たとしても、それを宇宙人と認める事が出来ないのですかと尋ねました。ここで、オーストリアの協力者ドラ・パウアー、ドイツのエリカ・クレーレンカンブ、オランダの会員などに紹介されました。

そしてとうとう一九六五年十月、デンマークでピーター・セン少佐、レーフ・ペ

デルソンと私が会合を持った時、私はあのレストランの男が、コペンハーゲンのチボリ公園から、実際のところは、多分デンマーク旅行の時以来、アダムスキー氏を追って来た男に違いないと確かめて、確証さえ得たのでした。

多分、アダムスキー氏が講演旅行をする時にはいつでも、我々のこの宇宙の友人は、彼に同行していたのだろうと思います。

一九六三年五月二十一日の夜、アダムスキー氏はアントワープで思慮深い聴衆を前に宇宙人との接触についての講演をしていました。その中で彼は、強力な破壊兵器を持った今、衰えつつある世界経済を支えるために戦争にたよるといいう方は、我々にとって不可能になった、という事を強調しました。そしてこれこそ様々な政府が、経済の安定のために宇宙計画を始める決定を下した理由だった



●左よりアダムスキー、1人おいてメイ・エツ
フリカ、クレーレンカンブ、ドラ・パウアー、
リック・ター（1963年撮影の美しい写真である）

のです。

ここで私たちは、ケネディー大統領とフルシチョフ首相との間のホットラインについての説明が得られるのです。

アダムスキー氏は話し続けました。私達とは違って、近接惑星の住人たちは、いわゆる利益体系を持たず、全員の利益や幸福のために共通の努力を払って働き、その生産物は利得抜きで、人々の要求を充足させると、彼は言うのです。

偉大であったルーズベルト

ルーズベルト大統領は一九三三年、株式取引の暴落の後、工場再開のために、この利得なしの生産体系と同様のものを導入したのです。もし、彼の計画がひどい妨害を受けなかったならば、私たちはより進歩した世界の住民と同じ物を、今持ち得ていたに違いありません。

なぜ地球外の生物との接触について語られる事を人々はこんなに理解しないのだろうか、という質問に答えて、一九五九年、アダムスキー氏はローマでの沢山の枢機卿が出席していた会合で、この問題はゆっくりと前進していくと答えたのでした。

アダムスキー氏はまた彼自身と同様に世界中のすべての政府はすでに接触をしておるのだが、しかし大衆の考え方に、必要な変化がおこるには時間がかかるかと公言しました。

彼はつけ加えて、他の惑星からの人たちはこの地球上で私たちの周りにおり、私たちが助けるといふ計画が私たちの科

学の進歩に大きく関係するので、我々の研究所で働くと同時に、政府にも働きかけているのだと語りました。

ここで私が強調したいのは、科学的計画について語る時、他の領域と同様、自然法則の研究も、他の世界の科学とみなされる、ということをお忘れはならないという事です。哲学と科学は「生活の科学」という一つのもののなのです。

そしてここで私たちが知らなければならぬのは、それが科学的基礎を持つているにもかかわらず、我々の宇宙の友人の計画は、経済的、政治的、また社会的見地から見て、私たちの日常生活を大きく変化させるものだ、ということですが、皆様への一つの例として、宇宙飛行士が宇宙へ出て行くに先立って、彼らのテレパシーを改良するための研究があるので、これなどは私達の側からすれば、自然法則のすでに現実に行われている応用に外なりません。

カリフォルニアで製作された宇宙船

アダムスキー氏はカリフォルニアで組み立てていた宇宙船が、一九七五年には他の惑星に向かって出発出来ると確信している様でした。彼が別の機会に語ったところによると、この新しいモデルには、この時点で高速を出す能力が期待されていたのです。しかしこれはまたもや反対勢力によるひきもどしの、注目すべき計画の一例だったのです。

この世の総ての人のための新しい世紀へ向けての実現へ向けて、アダムスキー

氏はたえざる努力をし、何と四月二十四日の彼のデンマーク到着以来、三十二の講演をし、二千もの質問に答えたのでした。彼は私たちすべての新しい生活は、宗教、信仰について何らの変化も要求するものではないが、ただ知性を合理的に働かせながら増やす事が必要だと語るのでした。

運命を変える、イメージを描く方法

五月二十三日は若者の為の日でしたが、この際には私たちの関心事に懐疑的な人も敵意を持った人も集まって来ました。アダムスキー氏は世界をつなぐ教育的プログラムと、この様なプログラムのための若者の調査の必要性を説きました。彼はここでテレパシーの問題にも少し触れ、私たちが何か悪い状態になりそうな予感に襲われたときには、頭の中のイメージを忠実に再成するネガの上に、精神的なイメージを作用させる様に試みる事によって、テレパシーを訓練する事が出来、これは訓練を要する事には違いないだろうが、可能な事であると述べられました。

もう一つ、アダムスキー氏が触れた主題は、宇宙の中の螢火（ホタルビ）の存在でした。これはまず一九五五年出版の『宇宙船の内部』の中に登場し、一九六二年、ジョン・グレン中佐により報告されました。そしてまた他の惑星の人々は私たちが彼らが必要としている程には我々を必要とせず、常に私達を援助する立場にいるのだという事を言われまし

た。

これらの話は夕方遅くまで続き、アダムスキー氏を夜食に連れ出す段になってやっと終わったという有様でした。出席した若者たちの関心は大変はつきりしており、アダムスキー氏の話と衝突したままだったので、彼らも私達とレストランへ同行したいとの申し出がありました。余りに多人数であり、またアダムスキー氏の疲れの事も考えた私たちは、これを断らざるを得ませんでした。

B.U.F.O.I.の会員すべてが、その魅力的な人柄に依つてのみでなく、知識の豊富さに感服させられました。彼には誰にでも話が出来るといった風な品格が備わっており、真摯な質問を浴びせる人々には常に礼儀正しく忍耐強く接しました。総ての人間には知る権利と、解答を得る権利があると、彼は信じていました。

彼のタフさは想像を絶していました。デンマークのピーター・セン少佐のお宅と農場を訪問した時には、朝の一時までも私達と付き合っており、翌朝、早起きし、すでに散歩を終えたアダムスキー氏は生き生きとした様子で私達の前に現れて、「やあ、遅いね」と声を掛けるのでした。

アダムスキーの素晴らしいテレパシー能力

彼のテレパシーの魅力について、私とラウル・ピーターズ夫人は、感動的な実例を体験しました。台所で沢山の招待客のためにお茶の用意をしながら、私たちが彼に一度、是非聞いてみたいと思つて

いた質問について話し合つたのですが、この珍しいお客、アダムスキー氏には沢山のお客様から膨大な数の質問が浴びせられておりましたので、私たちはその質問をするチャンスを見つける事が出来なっておりました。私たちが台所を出ると、話に熱中していたにもかかわらず、振り向いたアダムスキー氏は、私たちにほほえみかけ、まだ口に出していないその質問の答えを私達に与えてくれたのです。

スイスのパーゼルでは彼のテレパシー能力のもう一つの実例を見ました。ドラ・パウアーと私はパーゼルまで、その先ローマまでは私とルウ・ジンスタークがアダムスキー氏に同行したのですが、滞在予定にしていたクラフト・ホテルに着いた午後、そこにはフランスでの協力者シュザンヌ・ソニエからの手紙が着いていました。手紙を手にしただけで、私達にアダムスキー氏は、その内容を予知して言ったのです。開封して見ると、彼の言葉は内容を正確に言い当てていたのが証明されたのです。

何人かの宇宙から来た人々がクラフト・ホテルの私達がしばしば食事を取つたレストランで我々をとりまき、目だたない様に私達の会話を聞いていたので、アダムスキー氏はいつも彼らに気がついていました。一人の婦人はほとんどいつも私たちの隣のテーブルに席を取り、あたかも古くからの友人の様にほほえみかけながら、注意深く我々の話に耳を傾けておりました。私がアダムスキー氏を一九六四年に訪れた時、彼は私に

この婦人とニューヨークで再会したむねを語りました。

ローマ法王に会う

私たちがバーゼル滞在中、ローマ法王の健康についての新しい危惧がとりざたされておりました。ドラ・パウアー夫人はアダムスキー氏とローマ法王との会見が実現する前に、このカトリック教会の長が亡くなられてしまうのではないかと、これに対し、アダムスキー氏は「いや彼はまだ亡くならねはしない。その前に私に会わなければならぬのだから」とほえみながら答えました。彼はそれを信じたくなかったし、ローマ法王のあんなにも急な死を予期していなかったというのには想像にかたくありません。

五月三十日、午後八時、ローマに着いた私達はホテル・アウリガの二十二、二十三号室をとりました。あとで私達はもつと静かな部屋へ移りました。

翌五月三十一日、金曜日の十一時、アダムスキー氏はルウ・ジンスタークと私を伴って、サンビエトロ大聖堂の前に到着しました。まさに歴史的な日でございます。

サンビエトロ広場に着いた時、アダムスキー氏は彼の周りを眺め、だれかに気がついた様子で「私の友人があそこにいる」と言いました。

彼は私たちに一時間後に合流する様子をつけ、人々をかき分けながら、サンビエトロ大聖堂にむかって左側にある私用

の出入口らしい大扉の方へ進んで行きました。そこには一人の男が彼を待っていました。

後に彼が私達に語ったところによりまずと、そこに入るに際して、着ていた物の上にスタータンというカトリック神父が普段着ている足まで達する長衣を着せられて、続いて、ローマ法王ヨハネ二十三世が休まれていた居室へ案内されたのだそうです。

アダムスキー氏に近寄りながら、封印された包みを見て、ローマ法王はほえみかけ「これこそ、私の待ち望んでいたものだ」と言われました。

彼らはかなりの時間、話をしました。最後にカトリック協会の長は、アダムスキー氏の頭上に手を置き、祝福を与えたのです。アダムスキー氏はその部屋を辞去した後も、一時間程、パチカンに留まりました。彼を案内してくれた男の人と話をしました。この男の人は口に出したくない事を知っている様子でした。

ルウ・ジンスタークと私はまず、サンビエトロ寺院の内部を見学し、そこにある数々の傑作を鑑賞したのち、サンビエトロ広場でアダムスキー氏が我々に言った場所に、彼を待つために行きました。

アダムスキー氏と再会したとき彼の目はきらきら輝き、非常にうれしそうに「私はローマ法王に会ったぞ」と言い、さらに続けて、法王には病気の様子はなく、まるで幼い子供の様なバラ色の頬をしておられたと語りました。

最初の印象に従えばよかった

一軒の小さなレストランで軽い昼食をとった後、私たちはホテル・アウリガに戻り、ルウ・ジンスタークが休息を取るために部屋へ戻ったので、私も気は進まなかったのですが、後に続きました。というのは、ホテルのホールにアダムスキー氏と一緒に残るべきだという強い印象を持ったからです。

私たちが再び下へ降りて行くと、アダムスキー氏は私に「あなたは自分の最初の印象に従えばよかったのだ」と言いました。

パチカンの高位の人が、この午後来訪され、アダムスキー氏を訪れ、メダルの入った小箱を彼に贈ったのでした。

アダムスキー氏はちょうどバーゼルのあの時と同様、私の直観を感じとっていた様でした。彼には表に現れない私の気持が見通せるのでした。

翌日、彼は私達にそのメダルを見せてくれました。片面にはヨハネ二十三世云々という銘に囲まれて、ローマ法王ヨハネ二十三世の肖像が刻まれており裏面には、翼を広げた鳩と銘が見られました。

後に当時のIGAP会員のロン・キャスウェル氏への手紙の中で、このホテルの主人は、この二人の婦人と半ば白髪になったアメリカ人の事、さらには一九六三年五月三十一日、金曜日の午後、パチカンの高位の人が、このアメリカ人を訪れた事を良く覚えていと述べています。

しかし、その五月三十一日金曜日の夜、私達は一つの衝撃を受けました。ローマ法王が夕刻、昏睡状態に入ったとテレビが報道したのでした。

翌日、六月一日土曜日ですが、私達はデスモンド・レスリーの弟、レスリー長官の家でのティーパーティーにおりました。お宅はすばらしく招待客もしゃれた方々でした。この時もほんのわずかの間に、アダムスキー氏が彼らの信頼を得た事に変わりはありません。氏にはすべての人と同じ水準に自らを置くことが出来るという持って生まれた才能があったのです。

翌日曜、元イタリア外交官で当時イタリアGAPの代表であったアルベルト・ベレゴが彼を訪れました。

月曜の朝、私が空路、アントワープへ帰る準備をしている間、アダムスキー氏はロンドンへ行く事になっていました。正にその時、私達はローマ法王、ヨハネ二十三世の死という悲しいニュースを知ったのです。一九六三年六月三日でした。彼の最後の言葉はイエスの最期の場での言葉、「唯一のもの」でした。

この様にして、アダムスキー氏の来訪は終わりを告げたのでした。しかし、これには後件があったのです。当時、ブエノスアイレスのアイダ天文台の責任者であった、イエズス会のセグンド・レナ神父が一九六八年十一月十七日になって、ブエノスアイレスの雑誌、ラ・ラゾンに一九六三年五月にローマ法王ヨハネ二十三世にアダムスキー氏が地球外から来た封印された包みを手渡し、金のメダルを

受けとったという記事を發表したのでした。

一九六三年六月三日の朝、ローマ空港で私はアダムスキー氏と別れたのですがそれが最後ではありませんでした。

翌一九六四年の四月、私の夫（故モルレ氏）と共に、私はビスタの彼の自宅で数週間を過ごしました。

ビスタでの日々は忘れ得ぬものとなり、ベルギーで、またスイス、ローマでアダムスキー氏が私達と共にいた忘れられない他のすべての事柄と同様に、私の胸に深く刻まれていきます。

ろうあ者に奇跡が発生

一九六四年五月のビスタ滞在中、ある日、一人の男が戸口に現れ、「私はろうあ者です。どうか、あなたの経験なきった事を教えて下さい」と書かれたメモを示しました。

この男は、もう何年も前から、一語も発音する事が出来なかったのですが、それにもかかわらず、私たちをびっくりさせたのは、彼がアダムスキー氏と別れる時、握手を求めながら「ありがとう」とはっきり発音した事でした。

アリス・ウェルズ夫人は、その時、私達にこの様な事が起こったのは決して今回に限った事ではないのだと指摘しました。またアダムスキー氏によれば「スペース・ブラザーズに彼を助けてくれる様に頼んだ」ということです。

この滞在も終わりに近づき、アダムスキー氏はアリス・ウェルズ夫人と共に私

たちをサンディエゴ空港まで送って下さいました。滑走路の上を滑る様に飛行機が遠ざかる中で、私はよく見なれた一つの影をながめていました。が、私にはこれがアダムスキー氏をこの世で見る最後の機会になるなどという事は思いもよらない事でした。

一九六五年、アダムスキー氏は会合の視察のため、個人的にベルギー及びヨーロッパを再訪しなければならなくなりました。しかし、これが実現しない前に、彼は亡くなってしまったのです。

一九六五年から一九六七年にかけて、ベルギーにおいては、BUFOIは報道機関と大変良い関係にあったので、フランス語、オランダ語圏の雑誌のどちらにも好意的な記事を与える喜びを持っていました。ここで皆様に申し上げなければならぬ事は、私の国は二つの異なった民族から成っており、その結果、フランス語とオランダ語—これはフランマン語とも呼ばれますが—の全く違った言葉を持っているという事です。

ステックリング氏の活躍

一九六六年、初秋、フレッドとイングリッド夫妻は私たちのアントワープの家に来られ、そこで、デンマークIGAAの会員のハンス・ピーターセン少佐、当時の英国IGAAの会員のロン・キャスウェル氏、オランダのネットィー・ド・ブランコップス夫人等に会われました。フレッド・ステックリング氏は私の家でたくさんさんの聴衆を前に会合を開き、次いでハ

グにおいて話をしました。アントワープでは幾つかの講演と、ベルギー国内の新聞、テレビを招いての晩餐会が開催され、大きな成功を収め、これら新聞テレビ関係者の反応も素晴らしいものでした。

一九六六年九月初旬、フレッドとイングリッド夫妻は我々に別れを告げ、空路フランクフルトへ、次いで鉄道でマンハイムへ向かったのですが、ここでUFOの大編隊映画をとっています。この映画はフレッド・ステックリング氏の「なぜ空飛ぶ円盤は来るのか」という本の中に述べられています。

一九六五年十二月、私の息子パトリックは当時、学生として通っていたブリュッセルの自由大学において、数百人の学生と教授達を前に講演を行いました。もう一つ、科学学院での講演のため、私とパトリックはフランス南部のトゥールーズへも参りました。

翌一九六六年十月には、報道機関とベルギーテレビの協力により、アダムスキー氏とマデリン・ロドファーの映画が「九百万人」という番組で九〇〇万聴衆者に向け、放映されました。これらの良い出来ばえの映画は大変好意的に受け入れられました。ただ不思議な事はベルギーテレビを通じて、私達はほとんど一通の手紙も視聴者から受けとらなかつたという事です。

私たちは驚きました。しかし、ほどなくフレッド・ステックリング氏と話をしているうち、彼も同様の体験をし、アメリカで他の人々にも同じ事が起こった事

を聞きました。何か正体不明の命令により、これらの手紙はテレビ局で差し止められているのではないかと考えたのでした。

反アダムスキー派のたい頭

時の流れにつれ、UFO信奉者の一般的态度に変化が起こりました。これはヨーロッパ、特にベルギーにおいて悲しむべき時期でした。ヨーロッパにおけるUFOに関する領域内の出来事について、一般的考えを知るためには、これについてお話ししなければならぬのですが出来るだけ手短かに通りすぎたいと思います。

色々なグループが地球外からの来訪者という主題についての公平な態度をだんだん失って行きました。ブリュッセルで一つの新しいグループの発足の後、そのグループは財政的に大きな手だてを持って一挙に開始され、広く広告する事が出来たので、BUFOIは強い孤立感を味わい、かつアダムスキー氏の名は傷つけられたのでした。

それにもかかわらず、私たちは一九七三年、出版社とベルギーのフランス語のテレビ局とに接触を持ちました。

ダルゴ社からジャック・ロブ作、ヨーロッパでよく知られているロベール・ジ画による、最も広く知られているUFOとの遭遇を描いた「空飛ぶ円盤に関する一件書類」という題を持つ劇画の本が出版されたのです。

これらの報告のうちの一つはアダムス

キー氏の会見について語られており、ジャック・ロブによる説明は誠実なもののように思われたので、私達は彼に手紙を出しました。このジャーナリストはすでにその劇画の中で述べていたので、私達は、彼が非常にUFOに興味を持っていたという事を知っていました。

彼は私たちを一九七二年一月、パリでの博覧会の時にアダムスキー氏のフィルムとマデリン・ロドファーのフィルム上映に招待してくれました。

ジャック・ロブは私たちに、彼はUFOの足跡をアメリカで視察したが、アダムスキー氏に会うには遅すぎたと語りました。アダムスキー氏はすでに亡くなっていたのです。

一九七三年の末、ダルゴ社から『他から来たもの』という題で、もう一つの出版がなされました。今回、その序論は初めの版とは全く意を異にし、ジャン・ミッシェル・シャルリエにより書かれ、その中で、愛すべきミッシェルは「あなたは空飛ぶ円盤を信じますか」という質問に対する答を与えました。「空飛ぶ円盤とは何を意味するのか、まず私に言ってみなさい」と彼は問いを投げかけ、「もし、あなたが、空飛ぶ円盤を地球外から来た機械であると規定するなら、ノーと言わなければならない。なぜなら、それは何か他の物だからだ」と続けます。彼は多分、空飛ぶ円盤は、ある場所から来たのではないのではないか、という問題を提起し、「時間とは？ 空間とは？」と問いかけました。

ワシントンのデービッド・プリンクレ

ーによれば、CIAもまたUFOはどこから来たに違いないと公表しているのです。愛すべきミッシェルは本当にUFOがどこから来たのでもないと感じているのでしょうか。

これがフランスにおけるUFO問題の最も有名な先駆者の一部によるバカげた論争のてんまつです。だが意見を変えたのでしょうか。

前述の第二版の中のロブとジジの役割について言うと、彼らはUFOに関する幾つかの恐ろしい話は隠しておきました。というのは、それらは無知でUFOの問題についての現実を知らない大衆にとっては危険な物語であり、曲解されてパニックを引き起こす危険性をはらんでいたからです。

他のケースとしてはバーニーとベティ・ヒルの場合に現れてきます。この出版は変化を反映していました。一九七三年中、私たちはアダムスキー氏とロドファーのフィルムを再び放映するために、フランス語圏のベルギーテレビと接触を続けていました。彼らはそれらを放映しましたが、私達の正しい解釈を全く無視し、実際には、かの有名なアンチアダムスキーのゲランにより集められた幾人かの科学者たちがスタジオから熱心にアダムスキー氏を攻撃したのです。

テレビ司会者がアダムスキー氏とロドファーのフィルムについての意見を求めたとき、ゲランは「これは全くのインチキだ」と公言したのです。「このフィルムを偽造するために、アダムスキーはどのような手段をもちいたのですか」と司

会者はたずねました。彼は、自分には分からないがアダムスキー氏は知っているはずだと答えたのです。あなた方はこれが科学的な答えだと思えますか？ フランスの、またフランス語圏のベルギー人研究者のほとんどが英語、特に米語を完全に理解出来ないというのは本当です。アダムスキー氏の本をよく理解して読んだフランス語圏の人は、まだ数多くはなかったのです。

UFOに対する一般の関心が高まるにつれ、アダムスキー氏に対する攻撃も数を増しました。道理の分からない出版物のすべてに反駁する事は私たちには不可能でしたが、それでも何人かには手紙を出しました。フランス人編集者の一人はアダムスキー氏はさしあたっては、世に埋もれているべきなのだ返事をよこしましたが、理由を言うことは避けるのでした。

彼らが暗示にかけられているのは明らかでした。それを彼らに認めさせることは非常に困難だったでしょう。

ジャック・ヴァリーの妄説

ヨーロッパではUFOの起源を語るために地球外の事について説明するのは、ある種の研究者の目的には効力を失っていました。その理由は簡単で、ジャック・ヴァリーによる幾冊かの本がUFOの乗員とのコンタクトという考えは、仙人とか、他の超自然的生物との遭遇と同じ様なものだと思われたからです。一九七五年、アレン・ハイネックとジ

ャック・ヴァリーによる『The Edge of Reality』という一冊の本が出版されました。それは超自然の確立された伝統へも話を広げていました。ここにはいくつかの有用な情報が含まれていたのですが、しかし研究者たちは、一般的に言うて堂々めぐりを続けていました。その原因は機密保持の役人になりました。科学的な意見が必要になった時にはいつでもあいまいな事ばかりで、地球外の物体とか、さらにその乗員とのコンタクトなどは信じないのです。

多くの研究者たちは、飢えた魚の様にエサに食いつき、やがてUFOは未来から来たものだとか、対応する世界から来たものだとか、精神的幻想だというようなUFOに対する説明が理論として前進させられる様になりました。

英国では心霊現象を研究するグループがその現象をUFOとの関係で混同しているという事も少なくなりました。フライングソーサー・レビュー誌さえも、南アメリカに源をもつ奇妙な話のいくつかを掲載し、一般の混乱に油をそそいだのです。UFOが物質的に建造されたものであるという考え方は、ある種の人々の目には風変わりな考え方と映ったのです。

ドーマン氏の素晴らしい研究

数学の教授であり、靴のデザイナーでもあるブリュッセル在住のジャン・ジェラルド・ドーマン氏はBUFOIの大変おもしろい友人の一人でした。UFOの

領域でも、彼はアダムスキー氏の小型 UFO の構造について複雑な幾何学上の徹底的な研究を行い、そこに思いもよらなかった幾何学の基礎を発見したのです。また彼は砂漠に残されたオーソンの足跡についての調査も行いました。

靴の専門家として彼はアダムスキー氏が間違っている事を証明しなかったのですが、彼の結論は、このはきものを設計したのはこの地球上のだれよりも進んだ知識を持っていったというものでした。彼はこのはきもの中に地球で知られていないすべての技術を発見し、なおより多くを見出したので、それがこのはき物は他の惑星で製作されたものの証明となったのです。そしてさらには小型の空飛ぶ円盤について、エジプトの大ピラミッドとの関係において、他のいくつかの発見をしました。

ドーマンの研究が進むにつれて、彼の直観力も開発されていくのは、私たちにとても興味深い事でした。彼が人間の素質の中により大きな関心をとり込む間に彼の精神も、よりしなやかになって来る様に周りの者には見えませんでした。これは南アフリカのバシル・ヴァンデンバーグの仕事と比べられるものです。

ドーマン氏によれば、オーソンのサンダルは大変特殊なもので、UFO を指揮する指導者によってしか履かれなかったのです。これらのサンダルはそれぞれ底、かかと、側面にある通信用のボタンを押すために考えられ、応用されたものだという事は確かなことです。ただ押すという事だけで UFO に対し、少なくとも

も六種の動きを指令出来るのです。

これは他の人々によつてはまだ公にされていない UFO 操縦の一面です。しかし、本来の我々の乗物と全く同様に、その道具を操縦するためには手と同様、足も必要だということは全く理にかなった事です。私の家で一九六六年にドーマン氏に会っているフレッド・ステックリング氏もこの理論に同意しました。ドーマン氏の『真相究明とアダムスキー事件』と題された本が現在まで、まだフランス語で出版されていない事は本当に残念です。

一九七〇年二月、UFO 研究による過労もあって不幸にもドーマン氏は亡くられました。彼が主宰していたベルギー UFO 連合会は連合の維持に努め、UFO 研究グループ相互の出会い、親睦を計ったのですが、個人的利害の対立のため解散しました。

この時からベルギーのフランス語圏、フランスでは雑誌間、グループ間で加入者を獲得するという目的の競争が始まりました。

UFO 研究の暗い時期

数年の後、これらのグループは一致点を見出した様でした。そして、地球外に起源をもつものとしての UFO について述べることを、どんどんやめていくのでした。この様に、沈黙という陰謀の中だけでも、地球上で起こっている地球物理学的变化にも、一九五八年に太陽の両極に変化があったという事実にも言及し

ようとはしませんでした。地球外に関する理論を崩すための、政府の役人や個人としての研究者に対する組織だった強い圧力の優勢について、もはや誰も語ることはしなかったのです。

ブラジル IGAAP 会員のウォルター・ビュラー博士は一九七八年二月二十八日付の手紙の中で、この科学を制限する様な妨害のひどさについて語り、科学はこの批評家にとつて、みせかけだけのものであるばかりでなく、超心理学の分野、またテレパシーも有史以前の研究と同様に目標にされているという印象について書いています。

私たちは一九六三年の来訪の際のアダムスキー氏の言ったことを忘れてはいけません。大衆にとつては、何事も段階的でなければならぬのです。問題についての知識を持っている者ならだれでも、この様な題材について急速な進歩を望む事は出来ない事を知っているはずで

しかしながら、教育の誠実な計画の代わりに、地球外の事に関する古典的研究家を信じることに於いて、または新しいすべての進歩という事において、人々の注意をそらすために事実とか、真実とかいうものを全く変型してしまつたというビュラー博士に同意する事はむづかしかつたのです。

それは中世にも似た UFO 研究にとつては暗い時期でした。

多分、人間にとつての過去への逆行に對するおそれが、多くの政府をして、UFO に関わる科学者の研究活動をやめさせるように仕向けたのでしよう。

この思想は科学研究国際委員会フランス支部の会員の理学博士から受けとった手紙から引用したものです。この科学者とは二年前から文通を続け、彼は BUFOI の会員になっています。

進歩的な科学者もいる

このころ、この科学者の意向もあってアダムスキー氏のテレパシーと生命の科学のフランス訳を待望する声は大きくなっていました。この人はアダムスキー氏の生涯と地球外のものとの接触に関するすべてに大きな興味を持っていると書いてよみました。アダムスキー氏に関する事柄の客観的情報の欠除は、公正でなく、また特にフランスにおいて、この問題についてアダムスキー氏と異なる物にする傾向が起こっており、アダムスキー氏が人を煙にまいて喜ぶ人間だと考えている人たちがいることを感じていました。彼は「真相究明とアダムスキー事件」という題のドーマン氏の本に評価を与え、彼にひどく興味を覚えさせたフレッド・ステックリング氏の「なぜ空飛ぶ円盤は来るのか」について語りました。そして「私は一〇〇%、アダムスキー氏を信じます」と手紙を結んでいます。これは CNRS において重きを成す一人のフランス人科学者の言葉です。

ベルギーのネーデルラント BUFOI に目をむけると、すべては急速に前進していました。

フレッドとイングリッド夫妻が一九七七年に私たちを訪れた時、私たちは一見

逆説的ともとれる一つの事をやってみようかと決心しました。フランス語が優勢なブリュッセルで講演するより、オランダ語、あるいはフラマン語の中心であるアントワープでのフレッド・ステックリングの講演を決意したのです。

会場を埋めつくした聴衆に向かい、月での生活について、また彼の研究について話し、注意深い聴衆に対してアダムスキー氏とマデリン・ロドファーのフィルムを上映しました。彼の講演もアントワープ滞在も成功を収めました。

BUFOIの大活動

正に、この時期、私はオランダBUFOIの創始を決意したのです。

フラマン人は何かに熱中したときには必ず組織を作り研究するのを常としています。

ほどなく、BUFOIは地球外の生物という問題について、デニケン氏と空想科学小説家のウォルター・エルンステイング氏と討論の円卓に着く様という招待を受けたのです。結末は何と千三百人以上もの人が会場を埋めつくし、さらに沢山の人が参加をあきらめざるを得ないというおどろくべき盛況に終わりました。

BUFOIの会場は一日中大群衆に押し寄せられ、アダムスキー氏とマデリン・ロドファーによる映画は人々に熱狂的に受け入れられ、会期の最後に再上映を求められるほどでした。

私たちが最も感動したのは、これらの

映画が深い沈黙の中で上映され、特にマデリン・ロドファーのフィルムの最後の部分で空飛ぶ円盤の滑空が大写しになったとき、皆が一瞬息をのみ、続いて割れんばかりの拍手が起こった時の事でした。私たちは思わず息をのみました。総ての人がUF0に非常な関心を抱きました。

この精神状態を生み出すにはスピルバーグ氏の映画「未知との遭遇」と、また同時にアントワープ始め、各地でこの一月と二月に広がったUF0観察の流行が大きく影響したことはいぬめない事実です。沢山の人が新聞雑誌に観察した事を報告し、それら報道機関の反応は大変好意的なものでした。火星から来たと思われる物体がとりざたされていました。

BUFOIネーデルランドはすべてにおいて突進を続けていました。BUFOI第二号の発行は、特に英語からフランス語、フラマン語の翻訳を要求する点で我々のささやかなグループに大きな努力を要求しました。それでも、人々に情報提供を続ける我々の努力が報いられ、愛好家は除々にその数を増していました。

一九七九年四月、アントワープで五十万部の発行数を持つ無料誌「ジェット」の記者が私たちを訪れ、話し合いの結果、UF0は地球外の物体であるという事を人々に真実として知らせようとする私たちの努力を認め、私たちの活動に関するセンセーショナルな記事を成しました。それ以来、私たちは二週間に一度、『UF0—謎』と題した記事をこの雑誌に連載し、読者を急速に増しました。



● アダムスキーとメイ夫人 (1963年撮影)

私たちはネーデルランドの読者のために門戸を開放し、そのためか出席者は会合のたびに増え、他の地方からはるばる来られる方もある様になりました。

私たちは人々にアダムスキー氏による生命の科学を紹介し、同時に私たちBUFOIの活動的メンバーは毎週集まりを持ち、アダムスキー氏の演説テープ並びに著作を徹底的に研究しているのです。

また私たちはポルトウヴェルトの会合の折に映画を上映するというフレッド、イングリッド夫妻によって使われた技術を登場させました。

現在まで、スーパー8ミリフィルムによってデニケン氏の映画、スピルバーグ氏の「未知との遭遇」、また去年の一月にテレビで放映されたニュージールランドのフィルムを上映し、これからもこの集

会でのフィルムの上映を続けるつもりです。私達は教育的性格を持つフィルムを探し続けています。

スライドについて言えば、私達はUF0に関する、またそれに密接な関連を持つ九百枚以上のスライドを所有しています。過去における地球外生物の来訪や、レナード・G・クランプによるUF0の推進手段、ジョージ・レオナードによる月における知的生活の明白さなどについてのスライドです。また私達はヘブンハイマーの著作による宇宙に植民地を建設するという計画を示すスライドを持っています。

宇宙に照準を合わせよう

私達の意図は、宇宙に向かって人々の精神を開くことであり、私たちのこの慎重な深い努力が、決して空しいものではないと自認しています。何か新しいもの、宇宙の中の不可欠な部分であると自分を認識すること、自分自身を宇宙空間の人間としてとらえること等を人々に考えさせる事が私達にとって大切な事なのです。アダムスキー氏もこの事を何度も強調していました。私達すべては生きています。そして惑星の外から私達の頭は宇宙にむかって焦点を合わせています。地球を現在の様な堅固な状態に保ち地球に生命を与えているのは、正に地球の周りの宇宙の圧力に外なりません。

私たちのラジオ受信と同様に、私たちの時間や季節は、太陽、月、また他の惑星から影響されているのです。



●花束を贈呈する（左より）佐藤和枝さんと穴原美智子さん。壇上左端は司会者の志田真人氏。

私達の周囲の宇宙についての研究は、遠い昔の人々にとってそうであったように、最も大きな重要性を持つ様になりました。この様に私達は、宇宙の男、また女としての実現へ歩を進めています。私達より進歩した惑星の人たちは、もうずっと以前に宇宙との結合を実現して、私達はその実現が彼らに与えたものを知っています。

同様に、私達の考えを他の世界の友人に向けて、彼らは私たちの惑星におけるよりよい社会のための戦いを援助することが出来ます。

輝いている人達のみが真に自由であり得るのです。なぜなら私達の世界に関するすべての事、私たちの訪問者に関する事、また宇宙探検のための私達自身の努力など出来るだけ沢山のものを学ぶことの重要性を常にアダムスキー氏は強調していたからです。

去年の五月、私達は文通者の一人である科学者のシル氏と会うことが出来ました。彼は非常に面白く、社交的で直感的な人物で、UFOに大きな関心を抱いています。が、この関心が原因となって彼は本来の同僚たちから追放され、私たちの来訪者に興味を持つ他の人々と接触できず国への亡命を試みています。

話をUFOに戻すと、そこに対立が常に存在している事は悲しむべき事ですがしかし、私たちはこれに真向から直面しなければいけないのです。

狡猾な妨害

一九七九年二月の『イースト・ウェスト・ジャーナル』の記事の中で、ジャック・ヴァーリーはこの対立に関係する新しい理論を打ち出しました。彼は共通の主題を持つ『欺瞞の自衛』『空飛ぶ円盤』『鉄の山からの報告』という本に言及しました。彼は地球上のいくつものグループは戦時中にドイツ軍をだますために開発された秘密兵器を利用したかもしれないと示唆し、それは他の惑星から来た何かの様に見えるだけでなく、ヴァーリーによれば、それは個人の接触という錯覚を与える事によって、精神を混乱に導くというのです。

ヴァーリーによれば、この匿名のあるグループによって隠された行動の後ろにある理由は、地球に対する他の惑星からの攻撃の可能性を信じさせ、恐怖によって国々を連合させようとするものであったと云うのです。

アダムスキー氏について彼が言うところを述べると、オーストラリアでアダムスキー氏をもてなしたある男によれば、アダムスキー氏は特権を付与されたある種のパスポートを手に入れたと述べ、また一千人のサンディエゴ、ポイントロマとパサデナの政府機関の科学者にも言及し、同時にUFO領域における使命に踏み出すという義務をアダムスキー氏は果たしたのだという事でした。

ジャック・ヴァーリーは、またイギリス軍司令官のイアン・ノリをアダムスキー

氏の最も重要な補佐役として名指しました。

しかしながら、ヴァリーの意図するところはアダムスキー氏を支持するものではなく、アダムスキー氏は誠実な人であったが他の人々と同様、いわゆる地球外からのメッセージを普及させるために、故意にだます計画に知らないうちに犠牲者選ばれた人の一人だったのだとの示唆をすることだったのです。このヴァリーの言葉から、私達は沢山の反対が、最も手の込んだ狡猾な手段を駆使して、意識的になされたと推論する事が出来ません。

しかし、ヴァリーは私たちに興味深い情報を与えてくれています。彼は国防の一翼を担う人間のUFO研究グループへの浸透について述べている点です。IGAPの中の何人もが、この事実についてはずっと前から推測していました。

助け合って前進しよう

さて一九七九年も終わりに近づいています。私たちは我々を待ち受けるもの、地球にとつての困難な時代を予見することが出来ます。アダムスキー氏が世界の変動の記事に書いている様に、林に囲まれた平地へたりつくため、横切らねばならない沼地に私達はいるのです。しかし、私たちが遠くに一条の光を見出し、おり、IGAPの協力と誠実な友情により、より輝かしく出来る事に変わりはありません。本当のUFOの性質について、地球の人々に知らせたいという願望

の中で、私たちは古い格言の中に真実を見つける事が出来ます。

東と西は共に働かねばならない。お互いに助け合いながら……。

皆様の好意に充ちたご静聴に心から御礼申し上げます。

藤田佳子訳

△編者付記▽

総会を終えて

久保田八郎

わずか一日の総会だったが、その前後八日間に及ぶフリットクロフト夫妻の滞日中の世話を含めて、準備とあと始末その他で全く大変だった。二十八日に成田空港を出発したフ夫妻と息子さんのフィリップさんを見送ったあと、どしゃ降りの雨の中を夜遅く帰宅してから泥のように熟睡し、翌朝十時半まで眠っていた。疲労困憊の極に達していたのである。遠来の客三名をもてなすのはこうまで難儀なものかと、更めて海外からの要人招待の困難さを痛感したのであった。

しかし総会開催に際して役員諸兄姉はよく活動して下さい、何よりも全国会員のご援助によるところ大なるものがある、全会員の皆様衷心より感謝する次第である。

今回は全く天候に恵まれなかった。二十三日の総会当日は早朝から雨がどしゃ降りとなって、うんざりし、出席者の激

減で大失敗に終わるのではないかと、なかばあきらめていたが、フタをあけてみると意外にも参加者数は約二百五十名に達して、まずまずの成果であった。アダムスキー問題やGAP関係の会合になると、ひどい雨でも来る人は来るし、来ない人は来ない、というようなものらしい。

フリットクロフト氏の講演中、終わり頃になって氏が演壇上のテーブルに倒れかかるというハプニングが発生して、関係者を憂慮させたけれども、控室でしばらく休憩して生気を取り戻した氏は、またステージへ出て行った。体重四十九キロという瘦身に血圧の低い特異体質のため、ときどき貧血を起こすらしいが、講演中にこんな状態になったのは初めてだとメイ夫人が言っていた。

総会後は夕方六時半より東京駅丸の内側構内のレストラン精養軒の二階大ホールでフ夫妻の歓迎パーティーが開催され、百名が出席して盛大であった。

志田氏の司会で私が音頭をとって乾杯し、大歓声がとどろいたあと、GAPより夫妻に記念品を贈呈した。フリットクロフト氏には加賀時絵の物入れ大箱、夫人には会津塗りの表紙のついた素晴らしいアルバムである。二人は西洋流にその場で包みを開いて一同に披露し、大喜びした。こうした日本の伝統的な工芸品は世界無比の美しさに溢れているので、もっと海外へPRすればよいと思う。

続いて私が息子さんのフィリップさんを英語で紹介し、それを志田氏が通訳された。ユーモラスにやったつもりだが、

皆さん理解されたかどうか……。そのあと、フィリップさんに一言挨拶をお願いする筈だったところ、どうしたわけか、それを忘れてしまった。この頃どうも忘れっぽくていけない。

立食パーティーだから人々は自由に移動できるので、会場は次第に騒然となり雰囲気も盛り上がり、やがて衣笠陽子さんの日本舞踊が演じられ、そのあと、フリットクロフト氏と衣笠さん、メイ夫人と私が組んで社交ダンスを一曲踊る。むかしはダンス狂だったのに、長くやらぬから複雑なアマルガメーションを忘れてしまい、うまく踊れない。

後半はゴーゴーダンスとなって十数名が激しく踊った。こうした場所では少めらしい顔をしてジッとしているのはよくないので、私は何度も全員に呼びかけたが、こんな西洋式パーティーに皆さん、あまり慣れていないらしく、前半はトヨアンハラミズホの国的雰囲気だったのはやむを得ないだろう。こうした場合、全員で大騒ぎを演じるほど白人の賓客は喜ぶのである。元気をとりもどしたフ氏も楽しそうに踊っていた。総会とパーティーとは性質が全然違うので、講演時は静しゅくに、騒ぐときは大いに騒ぐというケジメをつければよい。とにかくバランスのとれていることが必要であろう。でも愉快な素晴らしいパーティーだった。皆さんはよく調和し、記念写真撮影に三十分を要したにもかかわらず、だれ一人として不平を言う人はなかった。けれどGAPならではの、大盛況裡に終了したのは九時半だった。



● 歓迎パーティーの全員記念写真。前列左より5人目がフィリップさん。



さて、キース・フリットクロフト氏はオーストラリア、ブリスベーン出身の大学では建築を専攻した技術屋であるから、ものの考え方が論理的で正確である。七八年夏にパリでお会いしているのが初対面ではなかったが、今度は八日間接して、氏の人物像が明確に浮かび上がってきた。

パリではきわめて無口で、常に額にシワを寄せて苦虫をかみつぶしたような顔をし、めったに笑顔を見せぬので、接近したい人という印象を受けていたけれども、つきあってみると非常に実直でまじめな人柄であることが判明した。ひどく風変わりであることは確かだが、一徹にアダムスキー問題に打ち込んでいるために生じる、ある種のアンバランスな面と、特異な体格により、そのような印象を与えるのだろう。風変わりといっても奇妙な服装をしたり奇行を演じるというのではなく、普通の白人には見られない何とも言えぬユニークさが発散しているという意味である。話す言葉はオーストラリア英語で、エイという二重母音がアイになるから、インフォメーションがインフォメーション、ネイムがナイム、メイビーがマイビーという調子で、聞きづらいことおびたしい。しかも蚊の鳴くような小さな声でぶつぶつ呟く。相手に理解できようができませんが一向にお構いなしという態度である。

一方、メイ夫人は人一倍のおしゃべりで、陽気にはしゃぎながら滔々と長舌舌をふる。ベルギーのアントワープ育ちで、フランス語を母国語とするけれども

五カ国語が可能というほどに語学の才のある婦人で、英語は流暢だが、フランス語の訛りが強く、特にrの発音はいわゆるパリのrといわれる特殊なゴロゴロ音でやるものだから、やはり聞きづらい。しかし実に楽しそうに話すので、とどまることを知らない彼女の早口の英語は聞いていても飽きがこない。

夫妻に同行して来日した息子さんのフリットさんは、フリットクロフト氏の妻子ではなく、メイ夫人の亡くなられた前夫であるモルレ氏の次男坊である。現在三十三歳でまだ独身なのは、一度結婚してわずか二カ月で離婚してから女に懲りたためなのと、両親のベルギーGAP活動を援助するために、翻訳、タイプ打ち、写真撮影、録音等の技術面を担当し、これに忙殺されるので、独り身でいる必要があるからだと言っていた。ブリュッセルの大学を出て、現在はアントワープの食品会社に勤めており、フランス語を母国語とするけれども英語も達者で、この人だけは純正イギリス英語の立派な発音で話していた。したがって彼がしゃべる英語は非常にわかりやすく、フリットクロフト氏のオーストラリア英語が理解しがたい場合は、そばから息子さんがイギリス英語で言い直して説明することがしばしばあった。日本GAPの女性と結婚する意志はないかと尋ねたら、彼は苦笑して何も答えなかった。

ちなみにベルギーは言語が複雑で、フランス語を主体にし、これにオランダ語の古い形の方言であるフラマン語が加わり、英語も用いられるから、ベルギーG

APは三種類の言語による機関誌を別々に発行せねばならず、えらい目にあっているのだとフ夫妻が言っていた。

三人は日本の滞在を心から喜び、あらゆる風物を珍しがった。特にメイ夫人は何を見ても Fantastic! (すばらしい) Beautiful! (美しい) Unbelievable! (信じられないほどだ) というような言葉を頻発していた。これは単なるお世辞や儀礼的な贅辞ではなく、実際にそう感じたらしい。たしかにヨーロッパは衰退期に入っており、新鮮味が乏しいから、東京の家電店やデパートに氾濫している最新式の電気器具やバラエティーに富んだ美しい商品の山などを見て驚嘆するのも無理はないだろう。ただし東京の物価高は世界一だということも心得ており、やたらと物を買いたるようなことはしなかった。

二十四日には銀座三越へ案内し、特に七階の日本の民芸品コーナーに連れて行ったときは嬉しそうに、あらゆる物を丹念に眺めていたけれども、買ったのはごく安価な小物少々だけだった。

しかし東京のすべてが美しいわけではない。私の住む江戸川区の下町などはヨーロッパ人の眼から見れば貧民窟にしか映らぬだろうから、都内の案内には慎重に気を使い、不潔な木造家屋の密集する地域を避けるようにした。

二十五日には京都へ案内したが、彼らは新幹線にまず驚異の眼をみはった。これはたしかに日本が世界に誇り得るもの一つだろう。ただし新幹線も乗りなれてみると不便が目立ってくる。まず網



●東京、銀座4丁目にて

棚の幅が狭いために大きなスーツケースがのらない。フ氏一家は大トランク数個を携行しているので置き場所に困ったが、これは私たち付き添い人が協力して座席の間に押し込み、事なきを得た。アメリカのグレイハウンドバスのごとき幅の広い網棚をなぜ新幹線の車輦にも設けないのだろうか。これでは飛行機に客を取られても仕方があるまい。力学的な点で不可能ならば、せめて大トランクの収納所を車内に設置すべきである。座席が後方へ倒れないのも窮屈である。長時間乗っているとくたびれるので、もっと車輦を改良する必要がある、などと考えているうちに京都へ着いた。

午後は型どおりに二条城、平安神宮、金閣寺、竜安寺の石庭の順で案内した。日本人のメンタリティー(ものの考え



●平安神宮

方)が西洋人とは全く異なることを、これらの建築物でフ氏は痛感したと述懐する。氏は建築の技術的な面で考察し、見学しているようだ。

平安神宮では運よく七五三で着飾った子供たちの姿が見られてメイ夫人は大喜びし、大変なはしゃぎようだった。この七五三というのは素晴らしい風習である。母親に手を引かれて日本の美しい民族衣装で盛装した幼児たちが嬉々として歩む光景は、ラフカディオ・ハーンという日本の美そのものである。主体が無欲な子供であるためによい感動的に見えるのだ。だが裏を返せば何のことはない親の虚栄心のコンクールなのかもしれない。

ま、むつかしく考えずに美しい物を素直に美しいと見ればよいだろう。メイ夫人はまさにその素直さの権化であること

が次第にわかってきた。何を見ても心から感心し、Fantasticを連発する。およそ、この人ほどに物をけなすことを知らない人はいないだろうと思われるほどに、あらゆる対象に讃辞を呈して、日本人の偉大さを強調するのである。少々尻こそばよくなってくるが、聞いてみると、彼女の母君が生前に日本をよく讃えて非常な憧憬を抱いていたというから、その影響もあるのだろう。日本GAP会員の皆さんを、よく調和した立派な人々だといつて三人とも激賞していた。

平安神宮の前で、空中を飛ぶ本物そっくりの鳥のオモチャを見て、夫妻は感動の極に達したらしい。無口なフ氏までが「日本人は何と素晴らしい物を作り出す民族なのだ」と大声で叫んだ。そしてベルギーの孫に土産にするのだといって夫人は「二もなく買い込んだが、あとで箱を見るとフランス製であることが判明して大笑いとなった。

「日本人はフランス人ほど独創的ではありませんよ」と私が言うと、「いや、フランスで見たことのない物をここで見せて喜ばせてくれる日本人の方が知的です」と夫人が言うので、また大笑いになった。

東京では雨にたたられてどうしようもなかったが、京都は快晴となり、神宮の朱塗りの建物が青空に映えて、見なれた私たちも感歎の声を放つほどに美観を呈していた。外人向けの観光名所としては第一級であろう。これから見ると二条城や清水寺などの塗料を用いない古びた木造建築は彼らに不潔感を起こさせるらし



●清水寺

い。ただし、二条城のウグイス張りの廊下を歩けばビコビコと鳴るのをメイ夫人が面白がって理由を尋ねるので、侵入者を防ぐためだと答えたら、何と日本人は頭が良いのだろうと、しきりに感心していた。

清水寺では女子中学生たちが一緒に写真に写ってくれと頼んできた。これもメイ夫人には異常なまでの友好的態度と思えたらしい。ヨーロッパでは考えられぬことだと言う。なぜ我々と一緒に写りたがるのかと聞くので、外人が珍しいからだろうとしか答えようがなかったが、これは悪い習慣ではない。

二十六日には午前中、清水寺、午後は奈良へ行き、例の大仏殿を見学した。偶像としては世界最大級だが、私はこれになじめない。なにか暗い印象を受けるの

である。さすがのメイ夫人もここでは少々沈黙気味だった。やはり同じ波動を感受するのだろうか。

昨秋ハワイティング氏が来日した折、この大仏像の右側の空地のあたりに強い波動を感じると言っていたので、そのことを伝えると、メイ夫人も何かを感じると言う。昔、ここで何か恐ろしい事があったのではないかと話していた。史跡めぐりは過去の出来事や事件等の波動めぐりともいえるのだが、それをキャッチするのがむづかしい。アダムスキーがヨーロッパでキリスト教会に決して入らなかつたという事実を、京都旅行中にメイ夫人も語っていた。要するに、入ってよい場所と、入ってはならない場所とがあるのだが、一般人はこの感知が不可能なため、自分では気づかぬままに無数の低次の波動をあびているのである。その意味で波動感知の練習場所として京都や奈良は絶好の地だ。

夫人と子息は語学の達人だから、よく語学の話も出た。メイ夫人によると、ヨーロッパで最も重要な言語は英語で、次がドイツ語、フランス語、スペイン語の順になるという。しかしこれは自分がフランス語国民だからドイツ語に一步をゆずって花を持たせたいらしい。実際には英語に次いでフランス語、ドイツ語、スペイン語の順になるようだ。

英語が最も重要なことはヨーロッパでも同様だがアメリカ英語よりも身につけるのならイギリス英語がよいと、メイ夫人はしきりに強調していた。

そういうばこんなことがあった。平安

神宮の前に立っていたとき、中年の外人紳士がこちらへ接近して、私に英語で質問してきた。二条城へ行きたいのだがパスポートを教えてもらいたいという内容である。よく知らないし、しかも遠いから、ここでタクシーを拾う方がよいでしょうと答えたら、残念そうな顔をし、謝辞を述べて立ち去った。

するとメイ夫人が眼を輝かしてささやいた。

「あの人はきつとイングランドから来た人ですよ。あの英語のきれいなこと！」

確かに、まるで日本語を聞くように響いた明快な純正クインズイングリッシュだった。そばではフリットクロフト氏が苦い顔をしている。夫人の説明から察するに、どうやらイギリス英語を東京弁とすれば、アメリカ英語は関西弁、オーストラリア英語は東北弁に相当するほど、それぞれ大きな相違があるらしい。いずれにせよ一つの国語として確立しているのだから、どれでもよさそうなものだが、日本人が決意を新たに英語をマスターしようと思えば、イギリス英語のテープ教材で学習を始めるのがよいかもれない。

フリットクロフト氏はフランス語があまり出来ないで、家族間では英語で通しており、メイ夫人と息子さんとは時折フランス語で話し合うが、ご主人には英語で話す。ややこしいことだ。

二十八日にふたたび新幹線で帰京の途についた。好天なので快適である。車中ではフ氏や夫人からアダムスキーに関する秘話を聞く。私はこの頃ひどく忘れ

ぼいので、全部を記憶できないのが残念である。マイクロカセットレコをポケットに忍ばせて片っ端から録音しておけばよかったのと思う。

どこらあたりだったか、ひどく空いている車内を一人の若い白人が肩に16ミリカメラをかついで通りかかち、テープレコーダーのマイクをいじっていたフィリップさんに向かって、録音しているのかと英語で話しかけた。長身のハンサムである。

「いいカメラを持っていますね」

メイ夫人が声をかけると、青年は「フランス製ですよ」と答えて歩き去った。

そのあとを日本人のように見える同行者らしい女性がついて行った。

私にはピンときた。この人はスベイス・ブラザーではないのか！

だが、そのときは言及しないで、続いてア氏問題などを話し合った。

昼すぎに東京へ着いて、タクシーで元のホテルへ向かったが、この運転手は言語道断な男で、虫ケラに近いものだったけれども、愚劣な日本人の存在をフ氏一家に知られたくないので、私は黙っていた。

ホテルに荷物を預けてから再度、銀座へ出て三越へ連れて行った。例の民芸品コーナーでイングリッド夫人宛の土産物を買いたいというのだ。しかしその前に三越の入口をバックにしてフ氏一家三人の写真を撮っていたとき、帰途、車中で見かけた例の外人が通りかかち、微笑しながら右手に持っていた紙コップを持ち上げ、私の方を見て乾杯の仕草をしてか

ら築地方面へ歩いて行った。

シャッターを切ってからすぐにメイ夫人がこちらへ走り寄って叫んだ。

「あの人を覚えていますか？」

「ええ。なぜこんな所で出会ったのですよう？」

息子さんも不思議がっていた。

あとで三越二階の喫茶店で休憩したとき、ひとしきりこの話題で話の花が咲いた。列車中で会い、再度この大東京のド真ん中の繁華街で出会うとは、しかも相手は二度ともこちらに対して友好的な態度を示したのだ！ やはりブラザーだったのではないか、というのが一同の一致した意見だった。

このあと浅草と新宿へ案内して滞日最後の日を楽しんだあと、一家は夕方、成田空港から出発した。いずれ、ある時期に再会する筈であるから、大いなる感傷は起こらなかったが、やはり胸が熱くなってくる。

全く素晴らしい一家だった。家族三人のそれぞれが重要な使命を帯びて、がちりと団結し、互いに助け合いながらヨーロッパでのGAP活動を推進しているのである。珍しい家族というよりも、別な惑星から来た人たちがカルマにより今生で結束したのかも知れない。したがって人間的にも洗練されており、マナーは実に立派である。陽気なメイ夫人のにぎやかな笑い声は常に心あたたまる雰囲気をかもし出したし、フリットクロフト氏の沈うつな表情は地球世界の現状を憂えているようでもあり、フィリップさんの純粹さと熱意は私たちの活動に大いなる

刺激となった。衷心よりベルギーGAPの発展を祈りたい。

離日後、メイ夫人とフィリップさんはロサンゼルス経由でビスタへ行き、三週間滞在して米GAP本部と接触を保つ予定であり、一方、フリットクロフト氏は単身でオーストラリアのプリズベーンに帰って、八十七歳になる母君に会った後、ビスタへ行って夫人たちと合流するということだった。したがって三人がベルギーへ帰るのはクリスマス前である。

ハ付記2V

その後十二月一日付でビスタからメイ夫人より次のような丁寧な礼状が来た。「日本滞在中にあなた方が示して下さいたいと思います。あなたやハナワ、ハマムラ、タナカ氏、シダ氏その他日本GAPの素敵な会員すべての方々に、どんなに深く感謝してよいかわかりません。」

日本滞在は忘れがたい体験となりましたが、これは生涯私の胸に残るでしょう。あなた方と共にすごした日々は最も有難いものでした。(中略)

あなた方すべてと一緒にいると、調和と親切さに関する偉大なレッスンを学ぶことができます。いつかベルギーで再会できることを切望しています。会員の皆様によりしくお伝え下さい」

フ夫妻の滞日中は総会を中心にした8ミリ映画をGAPで制作して一時間分に編集し、「Japan Beautiful」と題するサウンドフィルムに仕立ててベルギーへ送った。これは同国各地で上映される。

オーラと過去世の透視

〈特別対談〉

●人体から発する不思議な放射線オーラと過去世透視の超能力を有する一女性会員との興味深い対談を公開。本人の希望により匿名とし、ここではMさんと呼ぶことにしよう。質問者は編者である。

—あなたはオーラが見えるということですが、どの程度見えますか。

「どの程度といっても……人から受ける印象によって見えてくるという感じがすることもあります。初めて見えたのは高校生の頃からそのことに今頃になって気づいたんです。他人の体の周りがポヤッと別な色になって見えるな、と感じていたのはずっと昔からだったんです。自分がそう見えるもんだから、だれもそうだと思ってたんですね、最初は。」

それでオーラのことを知ってから友達に言ったら、そんなことは絶対ないんだと言われましたが、テレビを見ていても画面の物体の周りが別な色になって見えることもあります。他人を見ていても、周りがポヤッと見えたりするんです。」

—テレビを見ても本来の色に見えないではかの色に見えるんですか？

「そうなんです。いま東京にいる友達と一緒にテレビを見ていたとき、周りがこういう色に見えるでしょう？と言ったら、違うわよ、それはMさんだけに見える色だと言ってます。」

—オーラには色がありますが、どの程

度の色が見えますか？

「色がよくわかるときと、わからないときがあります。このまえメイ夫人を見ていたときは、オーラの色を見るといつも感じるほうが強くて、印象として色がわいてくるという感じでした。」

すばらしくきれいな色で、銀色から黄金色にかけたような色でした。発散するような、体全体から溢れ出ているような感じでした。オーラの長さは三十センチ以上はありました。」

—人間ばかりでなく、いろんな物を見てもオーラが見えますか？ たとえばここに

あるテーブルや椅子とか。

「色は見えますが、周りが薄くぼんやり白く見えることがあります。」

また人がすごく愛用している物は、その人のオーラの色が伝えられているような気がします。たとえばGさんがいつもGAPの月例会に持ってきて下さるテーブルコーナーはGさんの色がそのまま現れているようでした。Gさんのオーラはいつもきれいなスカイブルーなんです。それと同じような色がテーブルコーナーにも現れていました。」

—人間が写っている写真を見ても、オ

ーラが見えますか？

「はい、見えます。」

—そうすると、アダムスキーの顔写真にはどんな色のオーラが出ていますか？

「それはもうゴールドです。見ているだけで自分の頭が痛くなるほどのすごい強いものを感じて、とても写真など見ていられないんです。アダムスキーの場合

はオーラが強すぎて自分が圧倒されて、頭がクラクラしてくるような気がします。」

—じゃ、オーソン氏のオーラになるともっとすごいんでしょう？

「そうですね、もう言葉では言えないほどの、すばらしい印象を受けています。」

—ステックリング氏は？

「あの方も、すばらしいゴールドに近いですね。」

—ホワイティング氏は？

「あの方も同じぐらいですが、ステックリング氏ほどにはゴールドに近くはないと思います。しかし、すばらしい過去世があるような、すごい印象があるんですね。写真を見ただけで圧倒されそうですわ。」

—イングリッド夫人は？

「あの方もすばらしい色です。皆さん、すばらしい色で何と言っているかわからないんです。オーラの色というのは非常に微妙で言葉で表現しにくい色が多いんです。シルバーといってもいろいろあります。イングリッド夫人の場合もシルバーですが、もっと鮮明に現れたシルバーです。」

—アリス・ウェルズ夫人は？

「シルバーとゴールドが半々ぐらいです。」

—このあいだ来日されたフリットクロフト氏は？

「あの方はシルバーに少し紫色が混ざっているという色で、光り輝いているような感じですよ。」

—息子さんのフィリップさんは？

「あの方は、シルバーにかなりの紫色が入っているという感じでした。」

—そうすると最高のオーラの色はゴールドの白色に近いような色ですか？

「とにかく光り輝くような、何と言った方がいいのか——」

—その次がシルバー？

「でもゴールドとシルバーのあいだにもいろんな色があつて、どんなオーラですかと聞かれても、言葉に出しきれないんです。」

—そこの町を歩いている一般人のオーラの色はどうですか？

「男の方だったらグリーン系統とか黄色とかが多いんですが、女の人の場合は、白っぽい色とかピンクが多いようです。」

—そういう色は何かの意味があるんですかねえ？

「よくわかりませんが、私自身の色も次第に変化していますから、だれしも段階を踏んでいるんじゃないかしらと思うことがありますし、過去世に従っているんじゃないかとも思うんです。」

—あなたは自分のオーラが見えますか？

「大体、見えます。今はたぶん青に近い色だと思っています。」

「私(久保田)はどうです?」
「紫とシルバーが混ざった感じですか」

「今も、それが見えるんですか?」

「見えます(と言って彼女は編者の体の輪郭をシゲシゲと見つめる)」

「どれぐらいの大きさに出ています?」

「そうですね、十センチぐらいかと思いますが、先生の場合は水の流れのように流動して発散しているように見えます」

「山形支部の山口君はどうです?」

「すごくきれいなブルーです。晴れた日の空という感じですか」

「紫や青や緑というのはオーラとしてはいいほうじゃないの?」

「そうだと思います。ゲームに凝っている人とか、マジシャンしている人とか、テレビに国会議員の燃えている姿などが出てきますが、こんな人たちを見ていると、非常にイヤな色をしているんです。何と言うか、いろんな色をかき混ぜた、汚れた色なんです」

「そうすると政治家のオーラはよくないんですか?」

「正直言って、あまりいい色している人はいないと思います」

「大平首相はどうですか?」

「グリーンっぽい色だと思います」

「田中角栄という人は?」

「大体似たような色です」

「仙台支部代表の笠原君はどうですか?」

「きれいな青い色です」

「東京の梶君は?」

「あまりよく覚えていませんが、たぶん紫だったと思います」

「浜村君は?」

「やはり紫色ですが、墙さんとは微妙な違いがあります」

「大体、GAPの人たちはみなオーラの色はいいでしょう?」

「そうですね、皆さん、きれいで、澄んだ色ばかりです。一般の人にはごつていて、たとえばグリーンといっても、その中にいろんな色が混ざっているように見えるんです」

「どうやらオーラの色最高はゴールドで、続いてシルバー、紫、青、緑というふうに光のスペクトル順に並ぶらしい。しかし人格の低い人は各種の色が混ざった不潔な色になるといいます」

「素晴らしかった
デザートセンターの大昔」

「話が変わりますが、あなたは過去世の透視ができますか?」

「過去の光景が見えたり、印象として強く感じることもあります。自分でポーツとしてテレビの画面でどこかの風景でも見えていますと、それに重なって自分の過去世が見えてくるような気がします」

「このまえ、フリットクロフト氏がいらつしゃいましたとき、会場でそのお姿を見ていましたら、驚いたことに過去世の光景が見えるんです。私とフリットクロフト氏とに過去世のかかわりがあったんじゃないかと思いました」

「それでパーティーのときにフ氏にお尋ねしましたら、あまり過去世の記憶はないということでした」

「どんな過去世ですか?」

「私が小さな少年で、たぶんイスラエル

かアラブ系で、黒い服を着たアラブ系の男の人がそばにいて、私の頭の上に手をおいているんです。私は何かを論じてもらっているという印象でした。それでフ氏を見たら涙が出てきました。親兄弟という関係ではなくて、もっと違う人から教えられていたという印象です」

「デザートセンターについては?」

「あの記事をニューズレターで読んでいましたら、なぜか涙が溢れてしようがなかったんです。そしてデザートセンターの遠い過去の光景が見えてきました。すばらしい草原に川があり、緑の大地にインディアンたちが住んでいて、その一人の男の顔が鮮明に浮かんできました。近寄りがたいくらい威厳のある人で、その人が何かをみんなに教えているように、インディアンといっても野蛮な暮らしじゃなくて、もっと自然と一体化している生活です」

「じゃ、あのデザートセンターは昔は砂漠じゃなくて、緑の豊かな大地だったわけですね。そのすばらしい男性というのはインディアンですか?」

「インディアン的な浅黒い顔つきですが、みんなが師として仰いでいるという感じがします」

「顔にヒゲをいっぱい生やしていますか?」

「あまり年でもなく、四十歳ぐらいで、髪が長く、眼が非常に印象的です」

「顔のヒゲは?」

「よく覚えていません。顔全体の様子がよく記憶になく、眼のあたりがアップで出てきたんです。よくはわかりませんが

やっぱり大昔にあそこへスペース・ブラザーズが来たようです。ある日、神が舞い降りるように、ブラザーズが降りて一人の男に話しかけており、男が何かを教えてもらって、それを他の人々に伝えているという感じがあるんです。円盤がすごく輝きながら降りてくるんです」

「あなたの過去世はどうですか?」

「すぐ前の前生は黒人でした。その前はドイツにいました。ヒットラーが外国に手を出す以前の全盛期にバイクで事故死しているんです。平安時代に日本にもいたことがありますが、どのくらい昔かわかりませんが、アフリカの地平線の見えるところに、白人として生きていた時代があった。そばにベラという名の女と一緒に立っている光景がすごく鮮明に浮かんできます。あとはチベットのラマ教の寺院の近くにいたことがあり、少年の頃に死んでいます。長生きした生涯がなくてわりかし短命が多かったようです。あとはインディアンとかジブシーとか——」

「それは絵を見るように光景が見えるんですか?」

「ええ、たとえばジブシーの占い師として水晶玉を見つめている光景が見えてくるんです。インディアンのとくも女として髪を三つ編みにして、荒涼とした砂漠みたいな所にいます」

「それ以外に、印象として映像が出てくることもあります。自分の体調がよくて心が落ち着いているときは、いろんな印象がわいてくるんです」

「そうすると、テレビの画像を見るように見える場合と、印象として感じられる

かアラブ系で、黒い服を着たアラブ系の男の人がそばにいて、私の頭の上に手をおいているんです。私は何かを論じてもらっているという印象でした。それでフ氏を見たら涙が出てきました。親兄弟という関係ではなくて、もっと違う人から教えられていたという印象です」

「デザートセンターについては?」

「あの記事をニューズレターで読んでいましたら、なぜか涙が溢れてしようがなかったんです。そしてデザートセンターの遠い過去の光景が見えてきました。すばらしい草原に川があり、緑の大地にインディアンたちが住んでいて、その一人の男の顔が鮮明に浮かんできました。近寄りがたいくらい威厳のある人で、その人が何かをみんなに教えているように、インディアンといっても野蛮な暮らしじゃなくて、もっと自然と一体化している生活です」

「じゃ、あのデザートセンターは昔は砂漠じゃなくて、緑の豊かな大地だったわけですね。そのすばらしい男性というのはインディアンですか?」

「インディアン的な浅黒い顔つきですが、みんなが師として仰いでいるという感じがします」

「顔にヒゲをいっぱい生やしていますか?」

「あまり年でもなく、四十歳ぐらいで、髪が長く、眼が非常に印象的です」

「顔のヒゲは?」

「よく覚えていません。顔全体の様子がよく記憶になく、眼のあたりがアップで出てきたんです。よくはわかりませんが

やっぱり大昔にあそこへスペース・ブラザーズが来たようです。ある日、神が舞い降りるように、ブラザーズが降りて一人の男に話しかけており、男が何かを教えてもらって、それを他の人々に伝えているという感じがあるんです。円盤がすごく輝きながら降りてくるんです」

「あなたの過去世はどうですか?」

「すぐ前の前生は黒人でした。その前はドイツにいました。ヒットラーが外国に手を出す以前の全盛期にバイクで事故死しているんです。平安時代に日本にもいたことがありますが、どのくらい昔かわかりませんが、アフリカの地平線の見えるところに、白人として生きていた時代があった。そばにベラという名の女と一緒に立っている光景がすごく鮮明に浮かんできます。あとはチベットのラマ教の寺院の近くにいたことがあり、少年の頃に死んでいます。長生きした生涯がなくてわりかし短命が多かったようです。あとはインディアンとかジブシーとか——」

「それは絵を見るように光景が見えるんですか?」

「ええ、たとえばジブシーの占い師として水晶玉を見つめている光景が見えてくるんです。インディアンのとくも女として髪を三つ編みにして、荒涼とした砂漠みたいな所にいます」

「それ以外に、印象として映像が出てくることもあります。自分の体調がよくて心が落ち着いているときは、いろんな印象がわいてくるんです」

「そうすると、テレビの画像を見るように見える場合と、印象として感じられる

場合と二通りあるわけですね？」

「そうです。また、他人の過去世を見るときは、写真などを見てみると、その人の顔と別な映像がダブって見えることがあります。（ここで大勢が写っている写真を出して）たとえばSさんという奥さんの場合、その写真を見てみますと、それに重なるようにして、日本の昔のお姫さまスタイルのすばらしい姿が見えてきます。笠原弘可さんの場合も、写真のうしろに丸い帽子みたいな物をかぶった若い中国人の姿が見えます。山口緑さんの場合は、よくわかりませんが、たぶんイギリスにいたと思います。あまり裕福でない貴族だったように——」

「宮城県の赤間昭夫さんはどうですか？」

「赤間さんはベルーとかアンデスとかの印象が強すぎて——」

「それでしょう。あの人はあのあたりに非常な関心がある人ですが、これはもう過去世をあらわしていますね。来年の南米旅行にはぜひ行くと言っているようですからね。赤間さんがアンデス一带にいたのは古いことですか？」

「古いです。インカの高貴な地位にいた人で、指導的な立場にいた方です」

「山形県の柴田文子さんについては？」「かなりいろんな所にいらしたようですね。ひとつはフランス、あとは中国……よくわかりませんが（考えながら）、すごく高貴な人とたずさわっていたと思います。男の方で、すばらしく輝いて見える方と——」

「GAPの会員のなかで間違いないしに

別な進歩した惑星から来た人だと思う人がいますか？」

「千葉県の遠藤昭則さんがその一人だと思います。土星からじゃないかという気がします。イエスと深い関係があったように思われるんです。別な惑星から来られたのが、そんなに遠い昔ではないようにも思います。あの方はイエス自身ではありませんからその周囲にいた人々の一人だったんじゃないでしょうか（編者注）イエスの弟子は十二人だけではなく、百人近くいたといわれている」

スペース・ブラザーに会う

「別な惑星から来た人というのは、会員中に他にいませんか？」

「よくわからないんです。メイ夫人が、スペース・ブラザーから受ける印象はすぐ消えてしまおうとおっしゃっておられますが、それと同じように、私もブラザーと会ったときもあんなによく見ていたのに全然覚えていないんです」

「ほう、どこで会った？」「このまえの東京のGAP総会の次の日です。上野から渋谷まで友達と二人で山手線の電車で夜八時頃乗ったんです。車内に入った瞬間、すごく気になる人がいて、私の眼がそちらへ行っただけです。私は服装関係のことをしているものですから、服装とか色とかに興味があるんですが、その人がすごく素敵な色の背広を着ていたの、差し向かいの席に座ったため、『素敵な色ですね、好きなんですか？』と心の中でぶつぶつ言ったん

です。

「もしたら相手の人がうなずくんです。私は驚いて、偶然かしらと思っただけ、もう一度『好きなんですか？』と繰り返したら口元が『そうですよ』というふうに動くんです。驚いてしまっただけに友達に言おうとしても言葉が出ないんです。彼女はどこかを見ていて、私に気づいてくれないうんです。言葉が出なくて、話すなといわぬばかりに何かの力でつかまえられるような気がするんです。それで『ほかの惑星から来た方ですか？』と心の中で聞いたら、また、うなずくんです。それで確信を持つようと思っただけ、もう一度聞いたら、また『そうですよ』というふうな口元が動くんです。それで驚いてしまっただけ、友達をついたら彼女は相手を見たんですが、私は話すことができないんです。だから彼女はブラザーだとは気づかなかったようなんです。私は見ているだけで精一杯で、続いて『GAPのこととよろしくお願いします』と言ったら、相手はただうなずいただけでした。私はふと疑問を起して『本当にスペース・ブラザーなのかしら？』と思っただけ、その方は眼を閉じてしまいました。私は後悔して、『もう一度お会いできませんか？』と何度も心中で尋ねたら、またうなずいてくれました。もうこれ以上話すことはできないと思っただけで見ていました。」

「そのときはすごいというか、オーラを見ようとしてもオーラもわからなくて、ただ眼を向けると、普通の人ならげげんな顔をするだろうに、ただ見返してくれ

るだけなんです。私たちが渋谷で電車を降りたとき、ようやく口がきけたという状態でした。」

「あとで顔を思い出そうとしても浮かんでこないんです」

「それは若い人でしたか？」

「はい、若かったです」

「背が高い？」

「はい、すごく素敵な方でした」

「白人タイプ？」

「ええ、白人タイプです。色が白くて、背がすらりと高い人ですが、でも顔が浮かんでこないんです」

「どんな色の背広ですか？」

「素敵なグリーンというのか、それにブルのネクタイをしめよくマッチした色のワイシャツを着て、すごい服装だなと思いました。私は服装関係のことをやっていますから、色合いとかそんなものを見ることがあります。その人は靴下から背広からネクタイから何から何までマッチしてすばらしいんです」

「相手が口を動かして答えたのは日本語で答えたのですか？」

「そうです。私のほうをすごく優しく見つめて下さいました」

「その他にスペース・ブラザーらしい人に会ったことがありますか？」

「あります。私の住む町で数度ありました（と言って彼女は体験談を話すが、ここでは省略）」

せきたてられる // 日本脱出

「未来のことはわかりませんか？」

「よくわかりません。特に自分のことに
關しては全くわかりません」

「大きな出来事、たとえば第三次大戦
がいつ頃起こるかというような」

「ブレジネフが遠からず死ぬんじゃない
かなど九月頃に思ったことはありません
か、どんなに印象を待っても、大戦が始
まるという気が起こってこないんで
す。もし始まるとしても、八〇年九月初
め頃だと思えます。その時期に何か大き
な事があるような気がするんです」

「日本が沈没するということは？」

「日本から早く出ようという印象がある
んです。長く居られないような気がして
なるべく早く日本からどこかへ行きたい
という気持があるんです。何か大きな事
件か動乱が起きるような気がします。そ
れもあまり先進国でなしにアフリカとか
ペルーや南米あたりに行つてしまおうと
いう気があるんです」

女王卑弥呼の姿が見える

「日本の古い歴史、たとえば女王卑弥
呼がどこから来て、どこに住んでいたか
というようなことが透視できますか？」

「ずっと以前、卑弥呼の話聞いたとき
に強く浮かんだ印象ですが、やっぱり卑
弥呼自体、すばらしく宇宙的なところが
あったと思います。ある日、突如現れた
というような印象がありました。日本と
いう何の文化も文明もなかった所に国を
築き上げたような気がします。すばらし
い力と能力を持って日本という国を開き
始めたような感じがしました」

「朝鮮から来たんじゃないの？」

「わかりません」

「どこに住んでいたのでしょうか？」

「どこという印象がわからないんです」

「実在したんですか？」

「実在したと思えます」

「服装や顔かたちが浮かんで見えます
か？」

「(彼女は下を向く)見えます。あまり美
人とは言えないんですけども、眼が大き
くて素敵な女性です。髪を長くして、王
冠らしき物をかぶって、長く赤い服を着
て、首に金か何かのクサリを下げてお
り、手にも何かクサリをして、何かを握
りしめて立っています。あまり大きくは
ありませんが、体格がよくて、すごくき
つい眼をしています。ととのった顔立ち
ですが、理知的な感じの顔立ちで、眼と
マユがすごくはつきりと浮かんできま
す」

「それが絵のようにはつきりと見える
んですか？」

「はい、見えます」

「服装をもっとくわしく。」

「赤い服で、ウェストのあたりにベルト
みたいなものをして、ロングドレスみ
たいな服ですが、赤いスカートの中にも
う一枚、白か黄色の何かが見えます。靴
らしき物をはいているんですけども、素
足が見えます。サンダル型かな？」

「周りには沢山の人がいる？」

「人に向かって話しかけています。男性
が前側に並び、後方に女性たちがいて、
一段高い所に卑弥呼がいて、下に向かっ
て話しています。黄土色の広い壇らしき

ものの上に立っています。男の人たちは
髪が長く束ねている、女性の人たちは
髪をひとつにまとめています。男も女も
一様に黒っぽい茶色の服を着ています。
ひざが見えるぐらいの——」

「場所はどこだろう？」

「さあ、どこかなあ、山があるんですけ
どね、その場所はすごく広い所です。で
もどこなのかわかりません」

「人間の過去世と同様に未来の事もわ
かるというですね。」

「それはわかりませんが、過去の世を見る
ほどには見えませんが、過去世なら意志の
力で、よくわからなかったのが、急に鮮
明に見えてきます」

「眼をつむらないと見えないの？」

「そんなことはありません。眼をあけて
いても見えます」

「眼をあけていて見えるときは、テレ
ビの画像を見るようにはつきり見えるの
ですか？」

「いつもはつきり見えるとは限りませ
ん」

「やはりカラーで見えるの？」

「そうです」

「そのときは眼の前にある実際の物体
は消えて見えなくなるんですか？」

「何かとダブって見えるような感じがす
るんです。たとえば今、先生を見ていま
すと、すごく素敵な女性の姿が見えてき
たんです。アフリカ系の女性かジブシー
か、その辺の女の方だと思います。髪が
長くて黒くて、裕福な家の、宝石などを
いっぱいつけた、素敵な方です」

「これは私の過去世のある一代のとき
ですね。かなり古い時代ですか？」

「そんなに古くないと思います。年齢は
二十七、八歳でしょうか。場所はどこか
わかりませんが、日焼けしたのか、色の
浅黒い、とにかくきれいな女性です」

「それは嬉しくなるね(笑)。」

「遠藤さん(千葉県)も素敵な金髪的女
性に見えたことがあります。いつか写真
を見ていたら頭のうしろに素晴らしくき
れいな金髪の女の人が見えたんです。そ
れで、ああ素敵な方だなあとそのとき思
って、オーソンかとも思ったんですけど
も、違うんです。本当にきれいな白人の
美人なんです。遠藤さんという方は、と
ても素晴らしい方で、圧倒されるような
パワーを感じます」

「そうですね。彼もオーラの見え
る一種の超能力者だし、生まれるときは
お母さんが神の声を聞いたということだ
ったし、ヨハネ黙示録を解説していると
きは夢の中で白髪の老人が出てきて激励
したというんですから、普通の人間じゃ
ないでしょうね。その白人の美人という
のは別な惑星にいた頃のことかな。」

以上は一時間半にわたる、きわめて興
味深い対談の一部分である。オーラはキ
ルリアン写真とは異なる不可解な実体で
科学的には未解決である。アダムスキー
もオーラと過去世透視、テレパシー、遠
隔透視等の大超能力者であった。これに
は考えさせられるものがある。

とにかく宇宙的な人間に進化するには
こうした能力の開発が不可欠のようだ。

質疑応答

(2)

スティーブ・ホワイティング

1978年度日本GAP総会
における質疑応答の完訳

問6 世の中の変革をするには政治活動をするのがよいと思いますが、米GAP本部としての政治活動に対する意見をお聞かせ下さい。

答 政治的な手段によって世の中を変えたいという質問は、一つの方法にすぎません。まだ多くの方法があります。重要なことではありませんけどね。世界の人々がどんなに自分たちの政府を非難しようとも、大衆という見地からみれば、彼らはやはり政府を尊重し、ある程度は指導を仰いでいます。政治的に言って、もし世界が各国政府の一体化、政策の一本化を求めて変化するならば非常に有利なことになるといえるのは、この理由のためです。

しかし私たちは個人として社会の一員として、政府を頼りにしながら待っているわけにはゆきません。というのは政府というものは多くの点で強そうに見える反面、他の点では非常に弱いからです。政府はその活動を遂行するために大衆の

支持を必要とします。私たちは政府の種々のレベルのリーダーに接触して、もつと政策を統一したらかと話すべきですが、そうする場合は、脅しや要求よりも理解力をもってリーダーに提言しなければなりません。というのは政府は毎日のように非常に多くの脅しや要求を国民ばかりでなく他国の政府や他の政治団体からも受けているからです。一方、政府のリーダーの決定は必ずしも完璧ではありません。彼らも私たちと同様に人間にすぎないので、完璧になるわけがないのです。

GAPの政治活動または政策に関しては、私たちは特定の政治団体または特定の政策に関係していません。そんなことをすれば分裂を起こすことになり、他人の政治上または宗教上の信念如何にかかわらず、人間の性のすべてをあらわすことが私たちの目標です。

ところで、目下、GAPは国連で働いている代表を持っており、それによってきわめて有利な結果が出てくることを願っています。しかし国連のいろいろなメンバーに対してどのように働きかけるかは今は言えません。国連の数人のメンバーは(私たちのGAP活動に)まじめな関心を表明しています。何かの進展があったら、久保田氏にその情報を伝えたいので、代わって彼が皆さん方にそれを伝えるでしょう。

問7 過労なボランティアの仕事で首の骨を曲げました。整形外科に通院してもあまり効果がありません。宇宙人からプレゼントされたというニューヨークのべ

ルビュー病院にある万能治療器で実験してみたいか。お願ひです。一人は私の姪で二十一歳、大学をリムーマチのため休んでいます。一人は知人で元銀行支店長、八十六歳、至って健康ですが、肉細胞を若返らせてみたいそうです。三人とも海外へ行くのは初めてではありません。実験台に三人を使ってみて頂けませんでしょうか。

答 ご質問の治療器のことですが、ニューヨークのベルビューという病院のその治療器について、そのような治療が一般人に利用できるかどうか、私は個人的に知っていません。一九六〇年代の初期に波動エネルギー治療器で行われた実験から知っています。この機械の作り方はスペース・ビープルから直接に伝えられました。私が最後に聞いた情報によりますと、この機械はおおやけには使用されていないということですが、それはまだ実験段階にあるからだとはいいたところですが、そう言えば全くの真実にもならないでしょう。関係者はその機械で実験を重ねてきて、約八十パーセントまでそれを完成させました。しかしそれを一般で広く用いない理由は、やはり経済問題にあります。

あらゆる産業と同様に、医療の分野でも数十億の資金を要する産業ですから、今お話ししているこの治療機械を広く用いられ、病気のために必要なほとんどあらゆる医療問題や外科医は数年にして不必要になり、医療の業界は急速にダウンします。一つの経済的な分野を支持する

ために数百万の人々が病気で苦しんで生きなければならぬというの、たしかに最も気の毒なことですが。

他の惑星の人々は治療に関して我々の技術をはるかに超えています。実際、皆さん方が他の惑星へ行かれれば、医療の分野で技術らしいものはほとんど見当たらないでしょう。他の惑星では病気の治療よりも予防の技術の方がはるかに有利であることを知っています。彼らはストレスや抑圧を排除することによって、今日我々が持っているような病気のほとんどを予防しているのです。したがって彼らは治療法を発達させることはさほど必要ではありません。

そこでベルビュー病院が質問の病気を治せるか、あるいは他の惑星から来た人々が援助してくれるかどうかは、全く個人的な問題です。なぜなら別な惑星から来た人々でさえも、地球の多くの病気に対する治療法を知っているわけではないからです。病気の最大の力は人間自身の内部にあるのであって、私たちがこの力を応用する方法を学ぶことができたら、あらゆる不健康な状態から脱して肉体を正しい形に保てるはずですが。

次に若返りに関して、人がある年齢に達した場合、年齢を逆戻りさせる方法は知られていません。私たちにやれる唯一の方法は、急速に老化するのを防ぐことでその基本的方法はすでに述べたとおりです。

問8 宇宙哲学を生活に応用するには、宇宙の意識をしっかりと定義する必要がありますが、では宇宙の意識とは

自然科学の法則を成立させている科学的な原理だと思いますが、いかがでしょうか。

答 宇宙の意識というのは、あらゆる想念や行為の背後にある英知または働きのなもので、これはたしかに自然の科学的現象を維持しています。実際それは、私たちがいま知っている、またはこれから発見しなければならぬあらゆる知識の基礎になるものです。

問9 アダムスキー氏によれば、近年、地球を除く他の惑星の人々は、別な太陽系に移動しているといわれますが、現在はそれがどこまで進行しているのでしょうか。またスペース・ピープルの地球に対する対処では今後どのような進展があるでしょうか。

答 一つの太陽系から他の太陽系への移住または移動は、はるかな大昔から行われてきました。過去二十ないし三十年間に他の惑星群の人々によって新しい太陽系が発見されましたが、これは私たちの太陽系の代わりをなすために出現したのだと彼らは確信しており、また私たちの太陽系は年齢に関する限り、確実に衰退期にあるとみなしています。

あらゆる太陽系は非常に長い一定の寿命を持っており、私たちの太陽系は現在衰退期にあります。スペース・ピープルはこの太陽系内の各惑星の軌道上の運行を観測することによって太陽系に関するこの事実を発見したのです。彼らはこの太陽系内の全惑星群の自転軸に「揺れ」が生じたことを発見しています。そして過去の歴史を通じて、このことは太陽系

が最終的に破滅に直面するべき時期に達してしまつたという確実な徴候であることを知っているのです。重要なのは、このプロセスに要する一定の期間というものはないということです。したがって急速には起こりません。

過去十年ないし二十年以上にわたって出てきた予言類、特に一九六〇年代に出た多くの予言類に関して言えば、地球の破滅または最後に関する多くの予言がありました。これについては何の根拠もありません。遠い距離から太陽系を観察してきた他の惑星の人々の最新の報告によりすると、このプロセスは数千年間続くかもしれないし、あるいはもっと早くなるかもしれないということです。

これは（太陽系内の各惑星の破滅は）惑星に住む人間の行為にかかっているのです。つまり核実験に密接な関連があります。たとえば私たち地球人が我々自身の惑星上でやってきたようなことにかかっているのです。他の惑星の人々が地球に関心を持つようになった本当の原因は一九四〇年代に地球が核実験や核弾頭の実験を始めたことにあります。大規模な地下核実験により地球からショック波が放射され、このために地軸の「揺れ」が増大するという事実が非常に危険がひそんでいます。一定の線を越えてこれが発生すれば、地球は完全に軌道からはずれてしまうでしょう（訳注II そうなれば全惑星群も影響を受け、太陽系全体が危険になるの意）。

問10 第三次世界大戦が起こるとすればスペース・ブラザーズはどのような行動をとるでしょうか。

答 ただいまのご質問のように、地球の大多数の人間を巻き込むような大戦争が発生した場合、スペース・ピープルはこれに介入して大惨事の発生を防止するでしょうが、これは全くの個人的な問題でそのときの状況次第だと思います。

彼らが知らせてくれたところによりまずと、世界中に人工的な大変事が発生した場合地球自体の（物理的な）安定が危機におちいらぬ限り、ブラザーズは介入しないでしよう。彼らは次のように述べています。地球人が直面する諸問題は私たち自身が作ったもので、したがって、自然のバランスの法則により、こうした（誤った）状態を修正したり変えたりするのは、私たち自身にかかっている。

彼らが私たちに代わってやるわけにはゆかないのです。それでなおも私たちが彼らから学ぶことを望んでいるのです。ただし私は次のようにつけ加えます。過去二十年間に、スペース・ピープルは、恐るべき第三次大戦になるかもしれないような国家間の大きな紛争は防止してきたと。彼らの活動により大戦争は起こらなかったのです。しかし私たちはいついかなる時でも、自分を救いたいばかりに彼らに頼るわけにはゆきません。共に生きる道を自分たちで学ぶ必要があります。あらゆる物事で彼らに頼ることはできないのです。

問11 現在の太陽系はどういう状態にあるのでしょうか。

答 太陽系の現在の状態については、先程基本的なことをお話しました。太陽系が破滅するかしないかという問題の回答でした。

しかし次のようにつけ加えてよいでしょう。一単位としての太陽系の状態は全惑星群でも同じだと。言い替えば、地球は他のどの惑星以上に（物理的に）悪化しているというわけではありません。太陽系の老齢化は全惑星群にも等しく作用します。

問12 頭髮はテレパシーを感受するのに重要だということを聞いたことがありますが、シャンプー、リンス、スプレーはその力を弱めるということはないでしょうか。

答 この問題については二つの部分に分けましょう（ホワイティング氏は笑う）。まず第一に頭髮の機能はテレパシーの受信よりもむしろ周囲から電磁エネルギーを吸収することにあります。このエネルギーは頭から足の先まで全身を流れます。頭髮が重要なと同様に、足の裏も地面に接触させることが重要です。なぜなら、私たちが吸収する多くのエネルギーは、足の裏から逃がしてやらない限り役に立たないからです。

他の惑星の人々から聞いていることですが、人間は合成樹脂よりも自然の材質（たとえば皮など）で作られて接地するような靴をはくことが極端に重要だということ。こうすることによって体内に吸収したエネルギーをためないで体外へ自由に流してやることのできるわけ、もし体内にたまればひどい病気になるので、このことを（訳注II 体を流れる微弱な電流を足の先から逃がしてやるこ

とが大切で、そのためにはアースになるような皮底の靴をはくほうがよいとの意。

次に、洗髪用のリンスやシャンプーに関する質問ですが、これはテレバシーよりもむしろ化粧の問題であろうと思えます。またハゲ頭の男でも豊かな髪を持つ人と同じほどにテレバシーの感知力を持っていると私は確信します。

問13 あなたが以前話されたニューズレター64号中の記事ですが我々の生活の維持と、ホームと呼んでいる惑星が危険になっているという事実が存在しているということについて、どの程度の危険性が含まれているのですか。

答 危険に瀕している地球という点ではすでにお話ししたとおりです。基本的にいってそれは経済のためです。なぜなら経済は人間のあいだに摩擦や不安をもたらせるからです。しかも経済は戦争を引き起こすような摩擦をもたらすのです。こんにちの戦争は百年前の戦争とは違いますし人間の武器や破壊の方法は、ほとんど努力を必要としないほどに進歩していますので、この惑星上の全生命を払拭することさえできるでしょう。

問14 次の戦争や大災害で人類の九十九パーセントは生まれ変わりができないといわれていますが、その点について何かご存知ならば教えてください。

答 この質問は二つの意味を含んでいます。まず第一に、生まれ変わりというのは「ある無限の英知あるもの」によって最後の瞬間に決定されるのではなくて、だ

れも介入することのできない科学上の法則なのです。

人間は想念であり、想念はエネルギーであり、それゆえに英知であるエネルギー、すなわち私たちの魂は、それを応用している私たちによってのみ永続してゆきます。言い替えれば、私たちが応用しないものは最終的には消散するのです。

私たちが自然な生き方から離れて行けば行くほど、私たちが所有している意識の量や意識のエネルギーの量は小となります。しかし、離れて行けば行くほど元へ戻るが遅すぎて、このエネルギーを取り返せないのだと考えてはいけません。その場合はただ生命の法則の応用を必要とするだけです。そうすれば自分が所有していた量の意識のエネルギーを取り返すことができるのです。

次に質問の二番目の意味ですが、地球が破壊された場合、九十九パーセントは絶滅して転生できないというのは、あまりにきびしい数字です。これは絶対的なものではなく、決定的な条件でもありません。そういうことになるのは、私たちが人間がそういう状態にする限りにおいてそのようになる、ということなのです。

先にも言いましたように人間はエネルギーですから、したがって人間はエネルギーを制御している自然の法則のすべてに従うのです。

この法則の一つに「類は類を呼ぶ」というのがあります。「類は類を呼ぶ」の原理は、生まれ変わりの原理に影響を与えています。人間は自分が最も好む場所に生まれ変わります。人間が地球上で

生まれ変わる理由は、自分の生き方によって地球へ引き戻されるといことなです。別な惑星に生まれ変わらうと思えば、自分の生き方を変えなければなりません。

問15 アダムスキーが他界してから十数年になりますが、また近い内にアダムスキーに会うことができますか。アダムスキー自身も地球のことが気になっていると思います。

答 他の惑星の人間の成長度は地球のそれよりもはるかに速いのは事実です。このため、アダムスキーが死んでから十数年後の現在、彼は成熟した肉体を持って生きていると考えてよいでしょう。

彼が地球のことに関心を持ち続けるかということですが、私は数年間、個人的に彼を知っていましたので、自分の同胞がどこにいようと、彼自身がどこにいようと、同胞のことを心配し続けるようなタイプの人であったことを私は知っています。

しかし彼が直接この惑星に帰って来るかどうかについては次のとおりです。

彼が死ぬ前に私たちに知らせたところによりますと、彼の意図では、自分の間地球には帰って来ないということでした。彼の意図は、この太陽系の中もっと進歩した惑星の一つに行くことにあり、それによって彼は自分が教えてきた原理のより高度な実践体験をふたたび持つことができるのです。というのはこの地球上では自分の知識のごくわずしか応用できなかったからです。

彼はいま遠い所から地球を観察してい

て、地球の諸問題に活発に取り組んでいる多くのスペース・スピールに対して、助言する立場にあると思います。

問16 転生の問題について。転生の際、意識の転生は原子の中のパウアが移転するのか、それとも意識それ自体が原子のパウアとは別に移転するのでしょうか。

答 意識の現れ方には二通りのタイプがあります。意識はもと一つの源泉から来ているものですが、その一つは個別的なもので、その一つは普遍的または全体的なものです。私たちは意識的または英知です。人間個人は生命の火から出た単一の火花であると言ってよいでしょう。細胞または原子のエネルギーすなわち中心は、普遍的または全体的な意識的英知によって支えられており、個別的なものではありません。

個別的な意識は私たちが死と呼ぶ時に転生します。しかし死体の原子群の内部に宿るエネルギーは永続します。なぜなら原子は破壊できないからです。現在の私たちの肉体を形成している原子群は過去に果てしなく無数の形あるものを形成してきています。動物、植物、鉱物など。そして肉体が死んだ後は、ふたたび元素に返ってゆきます。したがっていま私たちの肉体内にある基本的な原子群は、その時の位置により、さまざまな異なる、形あるものの一つに応用されます。現在、自分を形成している生命の個々の火花すなわち意識は、永続的に一つの物体から他の物体へ移転し続けます。

(以下次号)

久保田八郎訳

会員の声

素晴らしかった総会！

静岡市 野口敏治

総会の大成功おめでとうございます。ベルギーからのお客様を招待し講演会を開催し、その準備及び接待そして無事帰国されるまでの間の御苦勞はなみなみならぬものがあつたと思われます。本当に御苦勞様でした。

フリットクロフト夫妻の講演もさすがヨーロッパきっての研究者というだけあって、多くの情報や話題を持っていて素晴らしい夫妻であると感しました。御夫妻でこのように一つの問題を仲良く行うことができるということはいくらもありません。

スライド上映も現地録音の声や音楽を流しながらの解説、そしてカラーのみごとな大画面。会場の皆さんも実際に旅行しているような気分になったことでしょうか。

総会終了後の歓迎パーティーも百名もの皆さんが参加され、衣笠さんの日本舞踊あり、フリットクロフト御夫妻と先生の社交ダンスあり、床が落ちんばかりの楽しい愉快なパーティーでした。このようなパーティーはやはり立食パーティーがよいですね。フ夫妻も若い皆さんと楽しくダンスをしたりして良き若き時代を思い出して、大変楽しい一夜を過ごされたことと思います。そして「日

投稿歓迎。「会員の声」宛と記し適当な用紙を使用。タテ書き。字数自由。匿名可。但し住所本名明記。

本GAPは素晴らしい人々の集団だなあ」と感じて帰国されたことでしょうか。

同時に二つの世界に
いるような感じ

千葉県 鈴木一宏

総会が大成功裡に終了しておめでとうございます。ただキース・フリットクロフト氏が講演途中でお倒れになったことを除けば、二、三の小さいトラブルがあつたものの成功したこと間違いないと思います。そのフ氏も軽い貧血のご様子で大事に至らず、すぐ講演を続けることができて何よりでした。更に夜のパーティー会場では何事もなかったかのようにに元気にダンスを踊られて安心いたしました。他の会員諸氏も同様に思ったと思います。スペース・ブラザーズのご援助があつたかもしれせんね。

ところで氏の御講演は今まで隠されていた事柄、情報等を知ることができて宇宙哲学を実践してゆく上で貴重なものとなりました。メイ夫人の御講演中には自分自身に應用してみるべき事柄が少なからずありましたので、年月はかかってもいいかもしれません。先生のスライド映写ですが、旅行の記憶が再度鮮やかに戻って来た感じがしました。夏の海外旅行から帰ってからの約一カ月間は、まだ参加者の皆さんと一緒に空を飛んでい

る様な気が消えませんでした。アダムスキー氏が宇宙旅行から帰って地球にいる時「同時に二つの世界にいる」と表現したのと同じ様にこの体験をしたのです。

夜のパーティーは非常に楽しく過ごしました。あの様な立食形式は初めてでしたが、この方が色々自由で助かりました。これからみると上野の「竹弥」は料金が安いのが良いのですが、狭く動けないのが難点です。衣笠文史の日舞はみごとでした。目の表情や手先等、注意して見ますと、やはりプロだなと感じました。でも何と云っても先生とメイ夫人のダンスが最高でした。パーティー最後のゴーゴーにメキシコのマリッチと南米のフォルコロの音楽を使おうとは思いませんでした。あれでもけっこう踊れるものですね。

先月に先生のお母様がお亡くなりになられたと聞いておりましたが、お悔みの言葉も申しませんで大変失礼いたしました。ここで改めて御挨拶を申し上げます。

フリットクロフト氏の
講演に陶酔

福知山市 仲間秀樹

本年度の総会が盛大かつ立派なものとなりましたことお喜びすると共に、参加できましたことに深く感謝いたします。今度は特に総会でGAPの皆様方とお会いして、その立派な人柄を強く感じてなりません。

この一カ月は日常の雑務に追われ、一般人の放つ低い次元の波動

の影響を受け、心の自己中心的な概念を作り出してしまおう自分に、本当に自我は強い」と深く感じ、悔恨の念を起こさずにはいられませんでした。

そういった影響に気を付けて、日常生活の中に生命の科学を生かさなくてはならないのだとつくづく思います。もともと大地に足をつけて頭張らねば……と決意はさらに強くなりまし。それにはたしか心を客観視し、誤りをしつかりと分析できるだけの冷静さと忍耐力が必要だと思ひます。

さて私は総会の前日に東京へ着いたのですが、泊ったホテルでの会話も、とてもなやかな楽しいものでした。とうとう午前三時半頃まで話をしています。

総会当日の中で、キース・フリットクロフト氏のご講演は私にとって非常な感動を呼び起こしました。途中、具合が悪くなられた後、再び講演を続けられた時がとくにそうでした。胸が熱くなり起こらないある種の感じからそうなつたようでした。特に「私たちは協力しあつて……」という所では更に強く感じられました。きつと過去世で強く私が思っていたことの中に、あのような気があつたようではありません。

フリットクロフト先生のひたむきな私たちに対する親愛の気持をずっと忘れることはないと思います。またメイ夫人の暖かい友愛の気持と寛大な人柄にも接することができ、ほんとうにすばらしい日でありました。去年のホワイティング氏の時とは違った面の感じをたしかめるこ

とができたのも、とても良かったのです。ずっと夕食会の時まで感動で一杯でした。そのため昼、食事に行ったり話したりしていた方々には悪かったかも知れませんが、どうしようもなかったんです。この感じは反省と決意といったような過去世での記憶よりくるものだということがはっきりしたのは、メイ夫人とお話できる機会が夕食会でめぐってきた時でした。

あの新しい立食パーティーに参加したのは初めてでしたので、マナーも解りませんでしたけど、とても便利に思いました。各人が自由に動きまわることができ、そのためいんな人とお話ができるからです。乾杯が済んでもまもなく、メイ夫人が気さくにお話をされているのを見かけることができました。そのうちに私たちのいるテーブルの方へもいらっしゃったので、今日の講演で感動したと言っておられた方を夫人と一緒に写真撮ってあげておりました。

そうしていたら「アダムスキー哲学に興味ありますか？」と声をかけられ、「大変あります」と答えると、質問があれば言うて下さいとおっしゃっておられました。このときに、こちらから何も言わないのに気持を察して頂いたその思慮深さに感謝する印象について質問したところ大体に間違いないことが確認されました。このことでもその日に起きていた感じの意味を大体に察することができました。これは決して快い体験の記憶ではありませんでしたが直面して受け入れなければ、と思ひ

ます。

GAPの方々を見ると、実にいろいろな関係があったことに気がきます。そのようなことで自分の果たす役割を認めて向上する努力を決してやめないこと、これが重要であることを改めて心に知らしめることを強く感じました。この点、先生を始め私たちのようにこの生命の科学を基礎にした生き方が、地球的な大変動の後に重要な役割をこなしていると思います。自分自身そのようなことを糧として生き抜いてゆくつもりです。

本年度の総会が与えてくれたことは、厳然たる宇宙の法則のきびしさそして真理の永遠性、真の宇宙的な愛、また地球社会のシステムを宇宙開発の方向へ変えてゆくことよって、奉仕的なものにしてゆくことを教えてくれ、また、アダムスキー師の人柄をしのび、彼の偉大な知識の一面に触れることができました。

あらためてこのような機会に恵まれたことに深く感謝いたします。また大変な準備をされました先生ならびに役員の方々に衷心より感謝いたします。どうかご健康に留意されて増々のご発展をお祈りすると共に、GAPの活動に最大の努力と協力をお願いしますとお誓いしてこの書簡をとじたいと思います。大変ありがとうございました。

GAP会員であることに誇りを持つ

東京 小野守

昨日(二十三日)は期待どおりの素晴らしい総会でした。講演中、突然K・フリットクロフト先生が机で

体を支えた時、一瞬心臓の発作かと肝をつぶしましたが、いつもの休憩の後、再度ステージで講演を続けられる師のお姿を見て思わず涙が出ました。

二時間近くも立ったままでのスピーチはちょっと苛酷な様に思えましたが、まったく全力で私達の魂をゆさぶってくださいました。

さて私は今日までわりと多くの文人・宗教家の講演会に参加してきましたが、なかでもGAP総会の出演者のお姿は大変高貴で上品です。内部からの英知が輝いています。私は久保田先生を初めとしてこんなステキな顔を持った方々に限りない憧憬を覚えます。そしてGAP会員であることに誇りを感じているのです。私はお二人とも大好きです。どうか今回の私達の感動をベルギーGAPフリットクロフト御夫妻にお伝え下さいませ。なつかしい久保田先生へ(编者注)この手紙は二十七日に到着したので即刻英文に訳して滞日中のフ夫妻に手渡しましたところ、たいそう感謝されて小野氏に直接礼状を出すと言っておられました)

男女のカップルが素晴らしい

東京 河井正康

GAP総会、御成功おめでとうございます。キース&メイ・フリットクロフト夫妻の講演、非常に勉強になりました。

フリットクロフト氏の講演中、疲労のためでしょうか中断され、心配しました。奥様の講演は非常に知的なフィリングがしました。

久保田先生のスライド映写、とても家族的なフィリングがして楽しく拝見できました。特に男女のカップルを長く映されたのが素晴らしいのです。シンボルマークそのものですね。

メイ女史の力強さに感動

大阪市 山田妙子

今日は空も晴れ、白い雲がゆったり流れており、冷たい空気もさわやかに感じます。

先日、東京の総会ではずいぶん多くのことを学ばせて頂きましたことに深く感謝致します。あの日は大阪を朝の五時半に家を出、まだまだ暗の道を地下鉄の入口の明るさだけに引き寄せられるかのように歩いて行きました。

そして少し遅刻致しましたが、会場に入ってフリットクロフト氏の胸元にペンダントがあるのを見つけた時、正直な所、何かとても不思議な気がいたしました。

(编者注)フ夫妻が胸にかけていたシンボルマークのペンダントは出田さんがみずから製作して贈った品)後半、お疲れになられ、心配でしたが、またお元気なお姿で続けて下さり、ほっと致しました。メイ女史の力強い、大地を思わせるようなフィリングは同じ女性として強い感銘を受けました。

夜のパーティーもなごやかで明るくて、いつまでもいたいような気持ちがありました。その後、二十四、二十五日と全員で八名の小旅行に箱根の方へ行きました。タウンエースという車を借りて(この車は屋根が

開いて、夏ならばきつと壮快なドライブができそうです)この旅も私には貴重な体験でした。

わずか三日間でしたが、すばらしい方々と過ごせたこの時間は貴重な宝のように今私の思い出として輝いております。毎日の勤めの中で、ともすれば本当に自分の信頼すべきものを見失いそうになる時もあります

が今はきつと大丈夫なんだという気がしています。いつかメイ女史史のような強さが私にも身に付けられたらどんなにすばらしいでしょうか。すばらしい総会にしてくださいませ

行きたいときは衝動が高まる

東京 山木益巳

お元気で過ごしてはいかがでしょうか?

素晴らしい総会と立食パーティー及び二次会、三次会、四次会と、二十三日と二十四日は、とうとう徹夜で飲み、語り合ってしまった。総会でスライドを見ながら、再び素晴らしい旅行を思い出した。また旅行に行きたいなあとしきりに思いました。しかし来年はどうやってみてもムリです。資金的にいってとてもムリでしょう。でも奇跡でもおこって行けるようになったり……：：：しんかいなあ? しかし現実の自分に眼を向けると、それこそあまりにレベルの低いことに時としてあきれます。もっとましな人間になれたら再びビスタを訪れてみたいと思います。「行かなくてはならないときは、そうした感じが高まってくる」と遠藤氏は言っていましたので……。僕の場合、まだまだですが――。

総会の数日前に佐藤和枝さんと山部清美さんの夢を見たのですが、今後の僕の人生に何らかの影響を与えるような存在になるのでしょうか。GAPの方で今まで夢に出てきた人は久保田先生と遠藤氏、浜村氏の三人だけであり、いずれの方も僕にとって重要な方達ですので、それ思うとうとうも気になります。単なる夢かもしれないが――。(後略)

早く宇宙的な人間に

埼玉県 野尻幸子

こんにちは。先生は毎日お忙しい中、お元気で過ごしのことと思います。私は先月の十四日に先生に大変失礼な電話をしてしまったものです。誠に申し訳なく思っています。それに特にその時がベルギーGAPの方をお迎えしての総会の前でもあり、悔やんでみきれません。私は現在十八歳です。小さい時から何か変わった事が好きでしたが、日本GAPに入会させて頂いてから今日まで二年半余りとなりました。先生は常に私たちに目のさめるようなすばらしい企画、情報を提供してください。その陰にある先生のご尽力、そしてオープンマインドの重要性を感じずにはいられません。早く私も宇宙的な人間になれるよう努力したいと思えます。

◆お願い

近辺に住んでいらつしやいます方ご連絡下さい。いっしょに語り合えたら幸いに思います。〒018101秋田県由利郡象潟町字浜山126の1110 佐々木三羊子

日本GAP各地 行事報告と予告

79年9月以降分

▼GAP天体観測会

●七九年九月一日夜
●参加者十九名

八月の海外旅行がたつて三十五名の申込者が次第に減少し、ついに十九名となったが千葉県内浦山県民の森は結構楽しい夜となった。女性三名を含む会員一同は三津田氏の十センチ反射望遠鏡、福原氏の六センチ屈折望遠鏡をのぞきながら天体を観測したが十時すぎに降雨となり観測を断念。翌日は全員で勝浦市鶴原の房総理想郷へドライブし、館山で午後三時に解散。雨に見舞われたのは非常に残念だったが意義深い二日間をすごした。
(鈴木一宏記)



●内浦山「県民の森」中央広場にて観測する一行

▼山形仙台支部 合同イモ煮会

●十月二十七日、山形市内にて
●参加者二十二名

山形支部主催のイモ煮会が開催され、近県からも参加者があり、盛大な野外の宴を張って終日楽しい日をすごした。イモ煮会というのは徳川時代から続いた山形市独特の伝統的行事で、河原にカマドをきずき、ナベをかけてサトイモ、牛肉その他の材料を煮込んでその場で食べるのである。この素晴らしい催しに来年は久保田先生や東京地区の方々をご招待したい。
(山口 緑記)



●山形のイモ煮会参加者

▼日本GAP総会

一九七九年度

●十一月二十三日 科学技術館
●午前十時より午後五時まで

●出席者 二百五十名

恒例の年次総会は雨天で出足が鈍ったもの予想以上の出席者を見て盛況であった。プログラム通り十時より編者の挨拶に続いてフリットクロフト氏が講演を行い、午後の部ではメイ夫人のフランス語による講演が延々二時間続き、最後に編者のナレーションで昨夏の「アメリカ中米宇宙考古学の旅」の美しいスライド約三百点が大きく展開して感銘を与えた。フ氏は講演中に貧血で倒れたが、少憩の後、再度ステージに現れ、有終の美を飾って大喝采をあげた。

役員及び雨天にもかかわらずご参加下さった方々全員に厚く御礼を申し上げる次第。(編者)

フリットクロフト夫妻

▼歓迎大パーティー

●十一月二十三日午後六時半より九時半まで。東京駅精養軒。参加者百名。
一九七九年度の日本GAP総会はベルギーGAPリーダーのフリットクロフト御夫妻を迎えて大講演会が開催され、大成功のうちに終了し、夕方は場所を変えて東京駅構内の精養軒の二階ホールを借り切って御夫妻の歓迎大パーティーが開かれました。

志田さんの司会で始まり、久保田先生の挨拶、そして先生の大音声の音頭で全員杯を上げ大声で乾杯しました。続いて日本GAPから御夫妻に各々記念品が贈呈されました。会員百名からなる盛大なパーティーはおそらくGAP始まって以来のことでしょう。

来のことでしょう。

立食パーティーなので自由に移動でき語り合う人々、食事をする人々と実にはやかな雰囲気になっていました。

しばらくして会員であり新派舞台女優の衣笠さんの日本舞踊が披露され、日本の民族衣装で民族音楽の流れるなかを艶やかに舞う日本女性を異国の御夫妻はどのように感じとられたでしょう。

次に全員の記念写真を先生の4×5インチ大型カメラで安藤さんが写された。



このあとは一変して社交ダンス。先生とメイ夫人、すばやく着替えられ見事に変身した衣笠さんとキース氏とが組まれワルツの曲のつて足元軽く踊られ拍手喝采でした。みなさんも各々にカップルを組んで踊られパーティーは最高潮に達しました。

御夫妻を囲んで語り合う人々、今夏の旅行を思い起こさせるメキシコの民族音楽も流され、これに合わせて踊る人達もあり、床が落ちんばかりの大盛況でした。

時間のたつのも忘れて楽しく愉快なフットクロフト夫妻歓迎大パーティーはこうして大成功のうちに終了しました。(野口敏治記)

▼おめでた

去る十二月三日、都内大手町の竹橋会館で日本GAP会員・岡部憲明氏(東京)がめでたく結婚式を挙行された。氏は月刊ヘン社の編集部員として活躍中で、謙虚さと礼儀正しさは抜群であり、ために多数の文筆家の信望厚く、盛大な披露宴は祝福の波で渦巻いた。編者もGAP主宰者としてご招待を受けた。新婦は高知市出身の広田美智さん。美人である。ご多幸をお祈りする次第。

▼東京新年会

恒例の日本GAP東京本部新年会が今年も一月十二日の月例会後に夕方六時半より上野駅そばのすき焼食べ放題の店「竹弥」で開催された。借り切りの七階大広間は約六十名の会員で埋まり、会費三千二百円ですき焼食べ放題・ビールお酒飲み放題の大宴会はカラオケにより歌も出たり、福引きもあつたりで終始歓声と爆笑に満ちて盛大裡に終了したのは九時だった。あとは二次会、三次会に流れた人が多かったらしい。(編者)

<予告>本年度静岡支部大会

日時 5月4日(日) 午後 1:00→5:30
会場 静岡市民文化会館・第1会議室(2F)
静岡市駿府町
TEL (0542) 51-3751
会費 ¥1000

—プログラム—

1:00 支部代表挨拶 野口敏治
1:05 講演「アダムスキー問題の真相」 久保田先生
2:30 一休憩・記念撮影—
2:45 映画「アメリカ中米宇宙考古学の旅」 浜村建郎
4:15 一休憩—
4:30 質疑応答(5:30終了) 久保田先生

大会終了後6:30より8:00まで希望者による夕食会を開催します。場所は静岡駅南口「サンパレスホテル」/会費¥3,500/問合せは野口敏治宛
TEL (0542) 86-7729 〒422 静岡市西島304-9

<予告>松山市の講演会

日時 3月23日(日) 午後 1:00→5:00
会場 松山市民会館・第4会議室(2F)
愛媛県松山市堀之内(NHK前)
TEL (0899) 31-8181
会費 ¥1000

—プログラム—

1:00 代表挨拶 伊藤達夫
1:10 講演「アダムスキー問題の真相」 久保田先生
2:10 質疑応答(3:10まで) "
3:20 映画「アメリカ中米宇宙考古学の旅」 浜村建郎
(4:50まで)

講演会終了後、希望者のみで久保田先生を囲んで夕食会を開催します。

今回初めて久保田先生をお迎えして松山市部(臨時結成)主催で講演会を開くことになりました。めったにない機会ですから多数ご参加下さい。問合せは藤原美由紀宛に TEL (0899) 45-0572

<予告>山形・仙台合同支部大会

日時 5月25日(日) 午前 10:00→4:30
会場 山形市民会館・地下会議室
山形市香澄町2丁目9
TEL (0236) 42-3121
会費 ¥1000

—プログラム—

10:00 支部代表挨拶 山口 緑・笠原弘可
10:10 講演「アダムスキー問題の真相」 久保田先生
12:00 一昼食・休憩—
1:00 映画「アメリカ中米宇宙考古学の旅」 浜村建郎
2:30 一休憩・記念撮影—
3:00 全員自己紹介, 質疑応答(4:30終了) 久保田先生

大会終了後6:00より9:00まで希望者による夕食会を開催します。会費 ¥3,000/会場は未定/出席希望者はハガキに「夕食会参加」と記して、4月末までに、〒999-31 山形県上山市小倉30, 山口緑宛お申込下さい。TEL (02367) 9-2555 ※6月の山形支部月例会は大会のために中止します。

<予告>第3回新潟支部大会

日時 4月6日(日) 10:30→17:00
会場 新潟厚生年金会館 4F 白鳥の間
新潟市南万代町1-8
TEL (0252) 43-3551
会費 ¥2000

—プログラム—

10:30 支部代表挨拶 足立亘宏
10:40 講演「アダムスキー問題の真相」 久保田先生
12:00 昼食休憩
13:00 映画「アメリカ中米宇宙考古学の旅」 浜村建郎
14:30 記念撮影・休憩

15:00 全員自己紹介, 質疑応答(17:00閉会) 久保田先生
参加ご希望の方には、前夜予定されている歓迎夕食会、宿泊施設等の詳しい案内をお送りしますので、3月15日までに下記へご連絡下さい。

〒950-21 新潟市五十嵐中島 2943, 足立亘宏(のぶひろ) TEL (0252) 62-0968 (夜間のみ)

日本GAP
企画第2回

アメリカ南米宇宙考古学の旅

俄然大反響! 参加申込殺到! 申し込みは早目に

本誌先号で発表した企画第2回の「アメリカ南米宇宙考古学の旅」は、たちまち大反響を起こし、1月12日現在で参加申込者は45名の多数に達した。これは昨年の企画第1回「アメリカ中米宇宙考古学の旅」の大成功に伴い、初めての方は歓喜と感動に、2度目の方はふたたび宇宙への夢と過去世へのノスタルジアに陶酔せんものと若き血潮をたぎらせたからだ。大気圏外ユートピアの見果てぬ夢と宇宙的な遺跡を求めて異国をさすらうわがGAP旅行団は、必ずヤスペース・ピープルの注目と庇護的になるであろう。定員40名をすでに突破したので、更に受入れワクを拡大するから、希望者は早く申し込まれたい。

参加申込者中間発表

12月20日現在
申込順

	氏名	住所	職業
1	野口敏治	静岡市	写真製版
2	菅原恵子	千葉県	会社員
3	西村勝正	東京	電気技師
4	柴田文子	山形県	会社員
5	石川敏雄	東京	"
6	福田昌利	名古屋	"
7	榊原敏弘	京都	国鉄職員
8	小林智利	群馬県	会社員
9	清水正	山形県	国鉄職員
10	佐塚崇子	東京	デザイン事務所
11	安藤澄雄	"	写真学生
12	大橋博子	北海道	電話局員
13	大久保千秋	青森県	調理士
14	成田智恵子	東京	大学生
15	野原次男	千葉県	中学教員
16	三津田稔	"	電話局員
17	鈴木一宏	"	市役所員
18	赤間昭夫	宮城県	会社員
19	高梨和明	静岡県	鍼灸師
20	(妻)美幸	"	看護婦
21	大山耕一	三重県	なし
22	小坂恵	岡山市	大学職員
23	斎藤泰文	東京	電波研修所
24	近藤富子	埼玉県	POPライター
25	大山ひろみ	栃木県	なし
26	武田充弘	名古屋	予備校生
27	志水千尋	静岡県	会社員
28	木島清	千葉市	高校教員

- 左表の申込者の内、10歳代の人が1名、20歳代が21名、30歳代が5名、50歳代が1名。
- 団体は30名以上なので、わが旅行団はすでに成立した(久保田と田中を加えて47名)。よって今夏の旅行は確実に実現することになったので、参加申込者はそのつもりで準備をすすめられたい。
- 6月上旬に第1回説明会を東京と大阪で開催。詳細は個々に通知。
- 今後地方支部大会で昨年度「アメリカ中米宇宙考古学の旅」記録映画(8mm サウンド・1時間半)を上映するので、これをごらんになればよい参考になる。
- 余裕があれば英語とスペイン語の簡単な日常会話を学習しておかれるとよい。下記の書物は有益なるも、ABCの全くの初歩から始める人には不向き。

英語を母国語同様にする!

ひとり言で
マスター英会話
できる英会話

久保田八郎/アン・デイクス

全国書店で絶賛発売中



■英語の語感を身につけて母国語同様にするには、英語で考える習慣を身につけねばならぬ。英語で考えるためには、自分自身の日常の行動に際して、英語でひとり言をつぶやくに限る。これこそ英語を自分のコトバにする魔術的な方法である——という著者久保田八郎は多年の研究と実験の結果、ついに秘法を公開した! これこそ他に全く類のないユニークな学習書であり、これにより、読者はむぞうさに英語を口から出すようになって狂喜し、〈英語で考えることのできる世界〉を作り上げて、英語圏内に住む一人となるのだ!

■本書の主体をなす第1部では、丸の内の大貿易会社につとめる混血の青年ユキオ・ブラウン君の春の一日ガストーリーとして展開し、その間たえずユキオが英語でひとり言をつぶやくながら行動する。読者も一人のユキオになって、日常生活で彼と同じ英語をつぶやくればよい。そのようにして“慣れる”のだ。第2部は英語のひとり言の重要なきまり文句集。第3部は外人にものを頼むときの模範的会話集。第4部は英語の文語体と口語体の相違を豊富な例文により解説。冒頭の「発音上の注意」や全巻にわたる脚注と共に、一般に知られていない意外な事実を多数渡らしている。

B6変型判・159頁・厚手上質紙使用

¥720 千120 (日本GAPでは取扱いません)

主婦の友社 千101 東京都千代田区神田駿河台1-6

TEL. (03)294 1111(大代表) 振替・東京2 180



日本GAP企画第2回 アメリカ南米宇宙考古学の旅



■ジョージ・アダムスキーがこよなく愛した南カリフォルニアのパロマー山とビスタを訪れて高貴な波動に触れよう！ ■1952年11月20日、アダムスキーと金星人がコンタクトしたデザートセンターで感動に身を震わせよう！ ■南米ペルーとボリビアに眠る謎のブレインカの遺跡群と、世界最大の謎の一つ、ナスカの地上絵は驚異の極致！ ■日本GAPが企画するこのすばらしいツアーに参加するあなたにとって、終生忘れがたい感動と歓喜の日々が展開するのだ！ 笈を背負い、手をたずさえて出かけよう、アメリカと南米大陸へ！

GAP会員は大挙して行こう！ アダムスキーゆかりのカリフォルニアへ 謎のインカの遺跡の国へ！

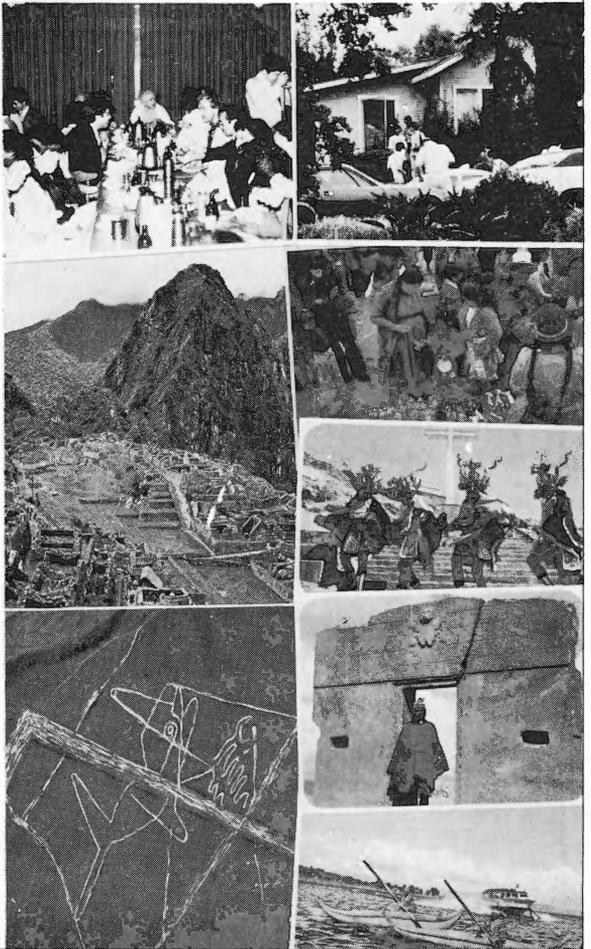
大成功裡に帰国した日本GAP企画第1回「アメリカ中米宇宙考古学の旅」に引き続き、1980年度の旅行はアメリカと南米を目標にしました。久保田と田中の名コンビが綿密に企画した手作りの旅は他社の追随を許さぬ高密度な見学日程でぎっしり。しかも費用は格安（他社ならばこの程度で大体70万円代ないし80万円代が普通）。めったにないこの絶好の機会をお見逃しなきよう、早目にお申込下さい。

- 定員 40名
- 期間 昭和55年 8月13日→25日(13日間)
- 費用 ￥598,000(航空運賃・朝食付ホテル代・団体バス運賃・その他の費用を含む) ★24回払い可
〒133 東京都江戸川区本一色町365-818
- 案内書 日本GAP(140円切手同封のこと)
- 申込先 米ロサンゼルス市、パロマーガーデンズ(アダムスキー旧居跡)、パロマー天文台、ビスタ町の米GAP本部(ビスタ1泊)、日米GAP合同夕食会開催、カリフォルニア砂漠の広大な大平原を走り、デザートセンター行き。ロサンゼルスへ帰り、飛行機でペルーのリマ市へ。黄金博物館、ラファエル・ラルコ・エレラ博物館、クスコ市、サクサワマン遺跡、幻の空中都市(マチュピチュ)、プノ市でインディオの原始的風俗を視察、チチカカ湖、ボリビアのラパス市、ムンパレー、ティワナコの遺跡、ナスカの地上絵を小型機で上空から視察(これは希望者のみ)、リマ市の国立人類学博物館、ふたたびロサンゼルスへ。その他。
- 旅行団長 日本GAP主宰 久保田八郎
- 添乗員 ワールドセブントラベル社 田中正
- 企画 日本GAP
- 主催 トラベル日本
- 協力 アメリカGAP本部
- 後援 ペルー大使館、ボリビア大使館

※この旅行は日本GAP会員を主体に企画したのですが、会員でない方も参加できます。知人等にお誘い合わせの上、多数ご参加下さい。この企画は日本GAP独自のもので他の団体や企業体とは一切関係ありません。

日本GAP

〒133 東京都江戸川区本一色町365-818 (Tel. 03-651-0958)



日本GAP全国月例研究会案内

支部名	日 時	会 場	会費	携 行 品 ・ 行 事
東京本部	毎月第2土曜日 午後2:00→6:00	上野公園内「東京文化会館」4階会議室。電話(828)2111。国電「上野駅」の「公園口」下車、改札口の真向かいスグ。会館正面に向かって左側の入口から入り、奥のエレベーターから4階へ行く。	¥ 300	テキストとして「テレパシー（文久書林刊）」を持参。2:00→3:00「テレパシー」講義、3:00→4:30主宰者挨拶・報告、テレパシー練習、休憩。4:30→6:00自己紹介、研究発表、質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」電話(388)7351。 国鉄または阪急電車「吹田駅」下車。連絡先=平塚和義 06-436-3478 子安達雄 06-719-7228	300	テキストとして「テレパシー」（文久書林刊）「生命の科学」を持参。東京例会における久保田主宰者の講演テープを公開。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟駅前「青年の家」 電話 0252-44-6766	200	テキストとして「テレパシー」を持参。東京本部例会における久保田主宰者の「テレパシー」講義録音テープを公開。
熊本支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	熊本市桜町「熊本市市民会館」会議室。電話(55)5235。国鉄「熊本駅」前から市電「健軍」行き乗車、「お城前」下車、同交差点左折、徒歩2分。 連絡先=津野田俊行 0963-52-3381	200	テキストとして「生命の科学」と「テレパシー」（文久書林刊）」を持参。久保田主宰の東京例会における「テレパシー」講義録音テープ公開。座談と研究発表。テレパシー練習。
福知山支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	福知山市「福知山市民会館」2階会議室。駅前から右方向の道路を直進し、2つ目の信号機の所。電話0773-22-9551 連絡先=仲間秀樹 0773-22-4340(呼)301号、平日は18:00~22:00まで	100	テキストとして「生命の科学」「テレパシー」「宇宙哲学」、久保田主宰者の講演録音テープ公開、自己紹介、研究発表、座談会。
岐阜支部	毎月第3日曜日 午前9:00→12:00 ※3月より第2日曜日に変更	岐阜市神田町「商工会議所」電話(64)2131。国鉄または名鉄「岐阜駅」下車、徒歩10分、バスか市電で「柳ヶ瀬」下車、近鉄百貨店を北へすぐ近く。 連絡先=間嶋泰行 0582-71-0069 林 国宜 0586-45-6468	300	テキストとして「生命の科学」「テレパシー」「宇宙哲学」を持参。久保田主宰者の講演録音テープ公開。支部長松尾氏による「生命の科学」解説。質疑応答、座談。
仙台支部	毎月第4日曜日 午後1:10→4:20 ※5月は山形市で山形支部と合同大会を開催。37頁を参照。	仙台市「市民会館」会議室（西公園内） 連絡先=笠原弘可 0222-95-0725	200	東京本部月例会における久保田主宰者の講義録音テープ公開、テレパシー練習、座談会。
山形支部	毎月第1日曜日 午前10:30→3:30 ※6月の月例会は中止	上山市「労働福祉会館」2階会議室。電話02367(2)6082。月岡公園入口より左側へすぐ。 連絡先=山口 緑 02367-9-2555 ※5月25日は山形市民会館で仙台支部と合同支部大会を開催。37頁を参照	200	テキストとして「テレパシー（文久書林刊）」を持参。東京本部例会における久保田主宰者の講演録音テープ公開、テレパシー練習、研究発表、座談会。
札幌支部	毎月第3日曜日 午前9:00→12:00	中央区北一条西一丁目「札幌市民会館」会議室。電話011-241-9171 連絡先=伊藤重信 011-251-4331	100	テキストとして「テレパシー」「生命の科学」と官製ハガキを持参。読書会、テレパシー練習、自己紹介。
静岡支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30	静岡市民文化会館 連絡先=野口敏治 0542-86-7729	200	テキストとして「テレパシー」を持参。東京本部例会における久保田主宰者の講演録音テープ公開。テレパシー練習、研究発表。
旭川支部	毎月第3土曜日 午後6:00→9:00	旭川市四条通り9丁目右6号「喫茶ひまわり」2F会議室。電話0166-23-9760 連絡先=石川公一 0166-51-5699	200	テキストとして「テレパシー」「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田主宰者の講演録音テープを公開。
松山支部	設立準備中	詳細は 〒790愛媛県松山市中村3丁目6の6、藤原美由紀宛ご連絡を。		

★本誌バックナンバー(旧号)★

米GAP本部公認の唯一の日本支部たる日本GAPがアダムスキー問題に関して正確詳細なインフォメーションを伝える本誌は貴重な資料として後世に残るものです。

No.65 主要記事「UFO問題の真相(1)」G.アダムスキー／「バミューダ海域の謎」F.ステックリング／「超能力開発法(1)」亀田一弘／「幻影と巨石の国へ(1)」久保田八郎／その他。

No.66 品切れ絶版
No.67 主要記事「UFO問題の真相(2)」G.アダムスキー／「永遠の生命を得るには」松尾和也／「私はこうしてGAPにたどりついた」衣笠陽子／「円盤の推進力」清家新一／「動物たちは知っていた」ゴードン・ギャスキル／「科学と人間愛と信念」久保田八郎／その他。

No.68 主要記事「UFO問題の真相(最終回)」G.アダムスキー／「アメリカ中米宇宙考古の旅」紀行「転生と追憶の砂漠へ」久保田八郎／「回想のアメリカ中米旅行」——思い出を語る人々／「質疑応答(1)」スティーブ・ホワイティング／その他。

No.65 ¥300 千200 / No.67.68 ¥500 千200

—日本GAP—
振替・東京4-35912
(久保田八郎個人名義)

①「テレパシー」解説講義と(1時間半)

②「質疑応答」の録音テープ(1時間半)

今年度東京月例会における久保田先生の毎月の「テレパシー」各課の解説講義録音テープ。①は真意を理解し、思想の統一を図る上で貴重な資料となるものです。先生の雄大な弁舌は聴く人の心をふるい立たせます。「近況報告」(30分)付き。テープ②は月例会での質疑応答の録音で、先生の明快な回答や珍しい話を聞くことができます。

テープ① ¥1000 千140
テープ② ¥1000 千140

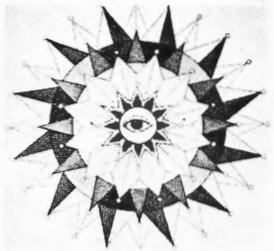
2本注文の場合、送料は200円です。

※これらのテープに限り、×月分と記して必ず下記へご注文下さい。(本年1月より毎月1課ずつ録音) 千274 千葉県船橋市前原西8-5-18
<東京月例会司会者> 浜村建郎 Tel.0474-65-1844



①

②



①オーソン肖像写真
②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第2部でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記録やアリス・ウェルズのスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた名画の写真。(キャビネ判)(カラー写真)

②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は「すべてを見透す眼」で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービス判)(カラー)

上記2点共、スペース・ブラザーズとの一体化を図る上で重要な資料となるものです。他所では入手できません。ご注文は必ず日本GAP宛直接に振替でどうぞ。

① ¥500 千100 ② ¥200 千50 一括注文の場合 千100

編集後記

★年頭に際しては多数の会員諸兄姉から年賀状を頂き、厚く御礼を申し上げます。編者は昨年十月に母が死去して服喪のために年賀の挨拶を一切遠慮させて頂きました。ご了承下さい。

★本号は昨年度総会の特集号とし、ベルギーGAP(正式にはBUFOI(ベルギーUFOインフォメーション)主宰者キース&メイ、フリットクロフト夫妻の講演録全訳を一挙に掲載しました。これは貴重な資料となるものです。講演時には意味不明であった個所も本号の印刷文により水解すると思います。情報伝達媒体として印刷物にまさるものはありません。その意味で今後本誌発行に全力を傾注するつもりです。

★大阪支部代表の片 京氏は昨年十二月末をもって代表から勇退されました。氏の多年にわたるご尽力に衷心より感謝する次第です。後継システムは平塚和義(尼崎市)、子安達雄(大阪市)、山田宏三郎(京都市)の三氏による共同代表制とし、平塚氏と子安氏が問合せ等の窓口となります。両氏の電話番号は右頁の大版の欄を参照して下さい。

★かねてから設立準備中であった北海道旭川支部がこの一月から発足しました。道内中央部の会員の方々にご支援の程をお願いいたします。月例会に出席する人数の多寡は問題ではありません。要はヤル気にかかっています。要請があれば編者が出張して応援しますから遠慮なくお申し出下さい。

★38頁の発表表と、今夏「アメリカ南米宇宙考古学の旅」は大反響を起し、予想外に申込が殺到しました。なかには昨年九月に結婚された高梨和明氏(静岡県)ご夫妻のごとく新婚旅行を中止して代わりに宇宙考古学の旅に参加するという方もあります。けだし最高のハネムーンになるでしょう。他にも夫妻で参加される方が一、二組ある模様です。希望者は早目にお申し込みの程を。

★これに先立つて編者(久保田)はアメリカGAP本部の要望により、六月から七月にかけて長期間カリフォルニア州ビスタのアメリカGAP本部を個人で訪問し、アダムスキー

問題について徹底的な研修を受けた上、重要資料や情報等を持ち帰ることにしました。六月十五日に帰国を出発し、ビスタに二十七日間滞りして帰国は七月十一日の予定です。ご期待下さい。撮影録音等の助手として嶋公明君が同行します。留守中の郵便物は浜村建郎君が処理しますから会費のご送金等に対して支障はありません。なお六月と七月の東京月例会には平常どおり出席します。

この研修旅行については一月の東京月例会で二月に発表する旨を発表しましたが、ビスタの米GAP本部側の都合により六月に延期されました。

★アダムスキー問題には重大きわまりない事実が含まれています。外部の雑音にまどわされずにテレパシー的な直感力を高めるよう、ご研さん下さい。

★昨年、社団法人化を目指して各方面から多大のご支援を頂き、厚く御礼を申し上げます。その後関係方面と折衝しました結果、法人化は不可能でないにしても資金・スタッフ等で難点があり、時期尚早との結論に達しました。したがって当分の間、従来の編に沿って活動を遂行するつもりです。しかしアダムスキーの著作全部に対する翻訳出版権はすでに日本GAPがアメリカGAP本部より正式に取得していますので、時期到来の折はこれらの改訳決定版を日本GAPより独占出版することになるでしょう。

★会費のご送金は必ず振替でお願いいたします。(K)

GAP ニュースレター 69号

編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP
〒133 東京都江戸川区本一色町365-818
電話(65)10958
振替東京4-35912(久保田八郎名義)

Jan. 20 1980 頒価500円・送料200円

